法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-14

和仏法律学校講義録

島田，鐵吉 / 杉本，貞治郎 / 松岡，義正

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
3
(号 / Number)
特別法
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
45
(発行年 / Year)
1903-06-01

（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可　毎月十九回一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日十八日廿日廿一日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年六月一日發行

三十六年度　特別法ノ三

和佛法律學校講義錄

第百廿參號

和佛法律學校

特別法第三號目次

戸籍法（自一〇九至一四八）　法學士　島田鐵吉
人事訴訟手續法（自二五至四八）　法學士　松岡義正
特許法（自一七至三二）　法學士　杉本貞治郎
雜報　○公訴ノ提起ニ因ル縣會議員失職ニ關スル判例○收入役ノ權限

090
1903
5-3

（二）庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ニ付キテハ民法第七百三十五條ヲ參照スヘシ

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ屆出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス（戸第六九條第三項）

汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ子ノ出生アリタル場合ニ於ケル其屆出ニ付キテハ其汽車又ハ其船舶ノ到著地ヲ以テ其子ノ出生地ト看做ス（戸第七〇條）

（注意）航海日誌ヲ備ヘタル船舶ニ付キテハ戸籍法第七十八條ニ特別ノ規定アリ

管轄權ナキ戸籍吏ニ出生ノ屆出ヲ爲シタルトキハ其戸籍吏ハ屆出ヲ受理スルヲ得ス戸籍法第六十九條ノ規定ニ違反スルモノトシテ其屆出ヲ却下スルコトヲ要ス然レトモ戸籍吏カ管轄權ナキニ拘ラス其屆出ヲ受理シタルトキハ其戸籍吏ハ出生ノ身分登記ヲ爲スコトヲ要スルモノトス而シテ管轄權ナキ戸籍吏カ其屆出ヲ受理シタル後ハ屆出義務者ハ管轄權アル戸籍吏ニ更ニ屆出ヲ爲ス

義務ナシ

(壹)出生ノ屆出ニ具備スベキ要件　出生ノ屆出ハ屆出ニ關スル通則ノ規定ニ從フ外左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(戸第六八條)

一　子ノ名及ビ男女ノ別

(注意)(イ)子カ出生シタル場合ニ何人カ之ニ命名スベキヤニ付キテハ特別ノ法令ナキモ予ハ出生ノ屆出義務者カ之ニ命名スヘキモノナリト信ス

名ハ人ノ表示ナルカ故ニ出生ノ屆書ニ子ノ名ノ記載ナキトキハ其生レタル子ハ何人ナルヤ明カナラス隨テ戸籍吏ハ戸籍法第五十條但書ノ規定ニ依リ其屆出ヲ受理スルコトヲ得ス今若シ屆出義務者ニアラサル或人カ命名權ヲ有ストスレハ其或人カ既ニ死亡シタル場合又ハ名ヲ命セサル場合ニ在リテハ屆出義務者ハ屆書ニ子ノ名ヲ記載スルニ由ナク到底適法ナル屆出ヲ爲スヲ得サルベシ然ルニ屆出義務者カ法定ノ期間内ニ屆出ヲ爲サント欲スルモ命名權ヲ有スル或人カ未タ子ニ命名セサル爲メ屆出ヲ爲スコトヲ得サルカ如キハ戸籍法ニ於テ出生ノ屆出義務者ヲ定メタル趣旨ニ反ス之ヲ要スルニ

予ハ戸籍法ニ於テ屆出義務者ヲ定メタル趣旨ヨリ推究シ屆出義務者ヲ以テ命名權者ナリト論定スルヲ正當ナリト信ス

(ロ)命名ハ出生ノ屆出ナル方式ニ依ルコトヲ要スル意思表示ナリ故ニ屆出義務者カ出生ノ屆出前ニ子ニ名ヲ命スルモ無效ナリ換言スレハ出生ノ屆出前ニ在リテハ子ニ名ナシ

出生ノ屆出ヲ爲シタル後ハ地方長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ名ヲ改稱スルコトヲ得ス(明治五年八月第二三五條布告)

(ハ)名ハ一定ノ文字ヲ以テ表示スヘキモノニシテ發音ヲ以テ表示スヘキモノニアラス故ニ例ヘハ出生ノ屆書ニ子ノ名ヲ「ウメ」ト記載シ在ル場合ニ於テハ其子ノ名ハ「ウメ」ナリ發音相通スルノ故ヲ以テ「梅」又ハ「うめ」ナル文字ヲ流用スルコトヲ得ス

(ニ)名ニ用ユル文字ニ付キテハ左ノ二ノ場合ノ外制限ナシ

一　御歴代ノ御諱並ニ御名ハ其熟字ノ僅之ヲ名ニ用ヰルヨトヲ得ス(明治六年三月布告第一八號)

二　國名、官名ヲ名ニ用ヰルコトヲ得ス(明治三年十一月十九日布告)

戸籍法實施前ニ在リテハ女ノ名ハ府縣ニ依リテハ專ラ假名文字ヲ用ヰタル慣例アリ然レトモ女ノ名ニハ漢字ヲ用ユルカラスト雖モ法令ナシ

(ホ)　女ノ名ニ漢字ヲ用ユル場合ニ於テハ之ニ傍訓ヲ附セシムヘシト爲ス說アリ然レトモ戸籍法ニハ女ノ名ニハ傍訓ヲ附スヘシトノ規定ナキハ勿論既ニ述ヘタル如ク名ハ文字ヲ以テ表示スヘキモノニシテ發音ヲ以テ表示スヘキモノニアラサルカ故ニ予ハ傍訓ヲ附セシムヘキモノニアラスト信ス

(ホ)　男女ノ別カ明カナラサルトキアリ(例ヘハ醫家ノ所謂半陰陽ナルトキ)此場合ニ於テハ出生ノ届書ニハ戸籍法第五十條ノ規定ニ從ヒ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

二　子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキハ其旨

(注意)　(イ)　子カ嫡出子ナルカ庶子ナル私生子ナルカハ出生ノ届出ニ付キテハ出生ノ時ヲ以テ定ムヘキモノニシテ届出ノ時ヲ以テ定ムヘキモノニアラス此事ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ニ付キテハ其旨ヲ記載セシメ出生後ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ニ付キテハ其旨ヲ記載セシメサル趣旨ヨリ推スモ明カナリ故ニ例ヘハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル子ノ出生ノ届出前ニ父母カ婚姻ヲ爲シ其庶子ハ之ニ因リ嫡出子ト爲リタルトキト雖仍ホ庶子出生ノ届出ヲ爲サヽルヘカラス

(ロ)　嫡出子出生ノ届出ニ在リテハ其嫡出子ナルコトヲ記載スルコトヲ要セス私生子又ハ庶子ナル旨ノ記載ナキトキハ嫡出子出生ノ届出ナリ推定セラル

(ハ)　夫カ妻ノ子ヲ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ニ於テ爲スヘキ出生ノ届出ハ嫡出子出生ノ届出ナリ(前三)參照)何トナレハ夫ハ否認ノ訴ニ依ル外自己ノ子ニアラサルコトヲ主張スルヲ得サレハナリ(民法第八二三條)

(ニ)　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキ場合ニ於テ爲ス届出モ亦嫡出子ノ届出ナリ(前三)參照)何トナレハ此場合ニ在リテハ裁判所ノ判決アルマテ子ノ父定マラスト雖而モ民法第百二十條ノ規定ニ依リ其子ハ前婚ノ夫及ヒ後婚ノ夫ノ子ナリト推定セラルルカ故ナリ然ルニ

之ニ反シテ若シ適出子出生ノ屆出ヲ爲スベキモノニアラストスレハ其特別ノ屆出ニ付キ管轄戸籍吏ノ定ナキカ故ニ屆出ヲ爲ス能ハサルニ至ルナルヘシ(戸籍法ニハ嫡出子出生ノ屆出庶子出生ノ屆出及ヒ私生子出生ノ屆出ニ付キテノミ管轄戸籍吏ノ定アリ前(西)參照但此場合ニ在リテハ屆書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第七三條第一項末段)

(ホ) 庶子出生ノ屆出ハ父カ民法第八百三十一條ノ規定ニ依リテ子カ胎内ニ在ル間ニ之ヲ認知シタル場合ニ限ル

出生後ニ父カ認知シタル場合ニ在リテハ出生ノ時ニ於テハ子ハ私生子ナリ故ニ庶子出生ノ屆出ヲ爲スコトヲ得ス

庶子出生ノ屆出ニハ子カ出生前ニ認知セラレタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

三　出生ノ年月日時及ヒ場所

四　父母ノ氏名族稱職業及ヒ本籍地但私生子ノ屆出ニ付キテハ母ノ氏名族稱職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス

(注意) 戸籍法實施後ハ本籍ハ土地ニ依リテ定ムヘク隨テ地番號ヲ以テ之ヲ表示スヘキモノナリ(第一七〇條第一七一條)

戸籍法實施前ニ在リテハ戸番號ヲ以テ本籍ヲ表示シタル府縣アリタリ例ヘハ何番屋敷ト曰ヒ何番戸ト曰フカ如キ是ナリ)而シテ此ノ如キ府縣ニ本籍ヲ有スル者ニ付キテハ戸籍法實施後ト雖戸籍ノ改製セラレサル限リハ本籍ハ戸番號ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ妨ケストノ說アリ(甲府區裁判所監督判事ノ問合ニ對スル明治三十一年八月三日附民刑局長回答)然レトモ戸籍法ニ於テ本籍ハ土地ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノト爲シタルハ以上ハ從來戸番號ニ依リタル府縣ニ本籍ヲ有スル者ニ付キテモ戸籍法實施後ハ地番號ニ依リ本籍ヲ表示スヘキモノト爲サルヘカラス何トナレハ戸番號ハ土地ノ番號ニアラスシテ家ノ番號ナレハナリ

五　(1) 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名族稱職業及ヒ本籍地

(注意) (4) 子ノ屬スヘキ家ハ民法第七百三十三條乃至第七百三十五條ノ規定ニ依リ出生ノ時ニ於テ定マルヘキ一旦定マリタル後ハ親族入籍養子緣組其他民法親族編又ハ相續編ニ定メタル方法ニ依ルノ外他ノ家ニ轉屬スヘキコト

ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得ルモノトス

(ロ) 婚出子カ出生シタル場合ニ於テ其入ルヘキ家ハ民法第七百三十三條第一項及ヒ第七百三十四條ノ規定ニ依リテ定マル

(ハ) 戸主ノ庶子ニシテ胎内ニ在ル間ニ認知セラレタル者又ハ胎内ニ在ル間ニ認知セラレタル家族ノ庶子ニシテ父ノ家ノ戸主カ其家ニ入ルコトニ付キ出生前ニ同意ヲ爲シタル者カ出生シタルトキハ民法第七百三十三條第一項又ハ第七百三十五條第一項ノ規定ニ因リテ父ノ家ニ入ルモ出生後ノ認知ニ因リ庶子ト爲リタル者ハ民法第七百三十三條第一項又ハ第七百三十五條第一項ノ規定ニ因リテハ父ノ家ニ入ルコトヲ得ス

但戸主ノ庶子ニ限リ出生後ニ認知セラレタルトキト雖父ノ家ニ入ルコトアリ私生子認知ノ屆出ノ節ニ至リ之ヲ說明スヘシ

(ニ) 婚出子ニアラサル子ニシテ胎内ニ在ル間ニ認知セラレサリシ者ハ出生ノ時ニ於テハ私生子ナリ故ニ母ノ家ニ入ル但母カ家族ナル場合ニ於テ母ノ家ノ戸主カ私生子ノ其家ニ入ルコトニ付キ出生前ニ同意ヲ爲ササリシトキハ其私生子ハ母ノ家ニ入ルコトヲ得スシテ一家ヲ創立ス(民法第七百三十三條第二項、第七百三十五條第二項第二項)

(ホ) 胎内ニ在ル間ニ認知セラレタル家族ノ庶子ニシテ戸主カ其出生前ニ同意ヲ爲ササリシ爲メ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル者ハ母ノ家ニ入ル但母ノ家ノ戸主カ其出生前ニ同意ヲ爲ササリシトキハ母ノ家ニ入ルコトヲ得スシテ一家ヲ創立ス(民法第七百三十五條)

(イ) 家族ノ庶子又ハ家族ノ私生子カ父又ハ母ノ家ニ入ルニハ其家ノ戸主カ出生前ニ同意ヲ爲シタルコトヲ要スルハ縱令出生後戸主ノ同意アルニ至ルモ其同意ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生スルコトナキカ故ニ其子ハ出生ノ時ニ於テ戸主ノ同意ナキモノトシテ其所屬ノ家定マラサルヘカラサルヲ以テナリ

(ト) 出生後ニ至リ父カ認知シタル庶子ハ其出生後ノ認知ニ因リ母ノ家ヲ去リ又ハ其一旦創立シタル家ヲ去リテ父ノ家ニ歸屬スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ考フルニ私生子認知ノ屆出ノ節ニ於テ之ヲ說明スヘシ

(チ) 家族ノ私生子カ母ノ家ニ入ルコトニ付キ母ノ家ノ戸主カ出生後ニ至リ

同意を爲さざるときは其私生子が一旦創立し自分家戸籍に入りたる母の家に轉屬せしめて廻復を得（同上）

（ロ）出生届書には其創立したる家の氏を記載すること要す

出生子が一家を創立する場合に於ては其家の氏は父又は母の家の氏に從ふべきものなりとの說あれども創立したる家は父又は母の家と何等の關係なきものなるが故に父又は母の家の氏に從ふべき限に在らず隨意に其氏を選定するを得と爲すを正當なりと信ず（香川縣鵜足郡岡田村戸籍吏代理助役の伺に對する明治三十一年十月四日附民刑局長の回答は予と同說を採る）

出生子が一家を創立する場合に於て何人が其氏を選定すべきやに付き特別の規定なきも予は届出義務者に於て之を選定すべきものなりと信ず（出生子が一家を創立する場合に在りては其者の本籍地は父又は母の本籍地に從ふべき限に在らず何となれば父又は母の家に入るものなるが故なり）

此場合に於ては何地を以て本籍地と爲すべきか又何人が之を定むべきかを得

ルカニ付キナハ特別ノ規定ナキモ子ハ屆出義務者カ出生子ノ本籍地ヲ定ムベキモノニシテ何地ヲ選フカハ其隨意ナリト爲スヲ正當ナリト信ス

戸籍法ニハ特別ノ規定ナキモ此場合ニ在リテハ出生ノ屆書ニハ出生子ノ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス（以下略）

（ニ）出生子カ一家ヲ創立セスシテ父又ハ母ノ家ニ入ル場合ニ在リテハ出生子ノ本籍地ハ其入ル家ノ戸主ノ本籍地ニ從フベキモノナリ故ニ此場合ニ在リテハ屆書ニ出生子ノ本籍地ヲ特ニ記載スルコトヲ要セス（同御ヲ解ス）

七　國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

（注意）（イ）國籍ヲ有セサル者トハ日本ノ國籍ヲ有セサルヲ謂フニ其外ニ數父又ハ母カ日本ノ國籍ヲ有セサルトキハ其有スル國籍ヲ記載スルコトヲ要シ國籍カ明カナラサルトキ又ハ何國ノ國籍ヲモ有セサルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス（以下略）

（ロ）出生子ノ國籍ハ左ノ規定ニ依リテ定マル（以下略）

國籍法第一條　子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其生前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ（以下略）

同法第二條　父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離緣ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失フヘキルトキハ前條ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス（以下略）

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス（以下略）

同法第三條　父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

同法第四條　日本ニ於テ生マレタル子ノ父母共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス（以下略）

（右國籍法第三條、第四條ニ國籍ヲ有セサルトキトアルハ何國ノ國籍ヲモ有セサルトキヲ謂ヒ日本ノ國籍ヲ有セサルトキヲ謂フニアラス）（以下略）

要スルニ出生子ノ國籍ハ父又ハ母ノ國籍ニ依リテ定マリ父又ハ母ノ國籍カ知レサルトキ又ハ何國ノ國籍ヲモ有セサルトキハ出生地ニ依リテ定マル故ニ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨ヲ屆書ニ記載セシメ出生地ヲモ記

載セシムル要アリ

(ハ) 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨ヲ記載セシムルハ出生子ノ國籍ヲ明カニセンカ爲メナリ故ニ父母カ國籍ヲ有スルヤ否ヤハ出生ノ屆出ニ付キテハ子ノ出生ノ時ニ依リ之ヲ定メサルヘカラス但國籍法第二條ノ場合ニ在リテハ子ノ出生ノ時ニ於ケル父母ノ國籍ノミナラス子ノ國籍ヲ定ムルニ付キ必要ナル事項ハ總テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

(ニ) 父母ノ國籍ニ付キ屆書ニ特別ノ記載ナキトキハ日本人ナリト認ムヘキモノナリ

出生ノ屆出ニ其要件ヲ具備セサルトキハ戸籍吏ハ戸籍法第五十條ノ區別ニ從ヒ其屆出ヲ却下スヘキモノトス故ニ例ヘハ出生子カ庶子ナルニ拘ラス嫡出子出生ノ屆出アリタルトキノ如キハ戸籍吏之ヲ受理スルコトヲ得ス

(吳)裁判所カ父ヲ定ムヘキ場合　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ子ノ父ヲ定ムヘキ場合(前(三)第一〇五頁ノ乙參照)ニ在リテハ子、母、母ノ配偶者即チ後夫又ハ母ノ前配偶者即チ前夫ヨリ之ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ヲ提起スルコトヲ得ヘク此訴ニ於テ裁判所ハ判決ヲ以テ前夫若クハ後夫ヲ父ナリト定メ又ハ其就レノ子ニモアラサルコトヲ宣言ス縱令審理ノ結果前夫若クハ後夫ノ子ニアラスシテ他ノ男ノ子ナルコトヲ知ルヲ得タルトキト雖其者ヲ以テ父ナリト定ムルコトヲ得ス(此訴ノ訴認手續ニ付キテハ人事訴認手續法第二章參照)

(注意) 若シ他ノ男ノ子ナルトキハ母カ其男ト私通シテ生ミタル私生子タリ然ルニ此訴ハ子カ前夫ノ嫡出子ナルカ後夫ノ嫡出子ナルカ將タ又其就レノ嫡出子ニモアラサルカヲ定ムルコトヲ目的トスルモノニシテ私生子認知ノ訴ノ如ク私生子ト其父トノ關係ヲ定ムルコトヲ目的トスルモノニアラス故ニ子カ他ノ男ノ子ナルトキハ裁判所ハ子ハ前夫ノ子ニモ後夫ノ子ニモアラサルコトヲ宣言スルヲ得ルニ過キス

民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ子ノ父ヲ定ムヘキトキハ其子ノ出生ノ屆出ハ母ヨリ之ヲ爲スヘキモノナルコトハ(吳)ニ於テ之ヲ說明シタリ然ルニ母カ此屆出ヲ爲シタル後父カ裁判ニ依リテ定アラタルトキハ其父ハ裁判確

定ノ日ヨリ一箇月內ニ(五五)ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ出生ノ屆出ヲ爲シ且ツ前ニ母ノ屆出ニ依リテ爲シタル出生ノ身分登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要スルモノトス(戸第七三條第二項)

又若シ母カ未タ屆出ヲ爲ササル前ニ父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一箇月內ニ(五五)ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ出生ノ屆出ヲ爲セハ足ルモノトス(同上)

(毛)棄兒ノ發見　棄兒トハ父母ノ知レサル子ニシテ且ツ未タ出生ノ身分登記ナキ者ヲ謂フ何歲マテノ者ハ棄兒トシテ取扱フヘキモノナルヤニ付キテハ法合ノ存スルナシ明治六年四月布告第百三十八號ニ依ルトキハ棄兒ハ十三歲マテハ國庫ヨリ養育料ヲ受クヘキモノナルカ故ニ十三歲以下ト十三歲以上トヲ以テ棄兒ト棄兒ニアラサル者トヲ區別スヘキ標準ト爲スノ說アリ然レトモ棄兒ニ關スル各般ノ制度ヲ設ケタルハ(一)父母ノ知レサル子ノ身分ヲ明確ニスル必要ト(二)其子ノ養育料ノ負擔及ヒ其養育ノ方法ヲ定ムル必要トニ出テタルモノナリ而シテ父母ノ知レサル子ノ年齡カ十三歲以上ナルト以下ナルトハ其養育料ノ負擔及ヒ養育ノ方法ニ關シ差異アリト雖其身分ヲ明確ニスル必要アル點ニ於テハ何等ノ差異アルコトナシ然レハ十三歲以下ノ者ニ限リ國庫ヨリ養育料ヲ受クルヲ得トノ理由ニ據リ十三歲ヲ以テ棄兒ト棄兒ニアラサル者トヲ區別スルハ其謂レナシトス

後ニ述フル如ク棄兒ヲ發見シタル者ハ其屆出ヲ爲スコトヲ要ス棄兒發見ノ屆出ノ制度ヲ設ケタルハ父母ノ知レサル子ハ前(天)マテニ說明シタル出生ノ屆出以外ノ方法ニ依リ其身分ヲ明確ニスル必要アルカ爲メナリ然レハ尙モ此必要ニシテ消滅セサル限リハ其年齡ノ如何ニ拘ラス其子ハ少クトモ戸籍ニ於テハ之ヲ棄兒ナリトシテ取扱ハサルヘカラス

父母ノ知レサル子ニ付キ棄兒發見ノ屆出ヲ爲サシムル必要アル場合ト其必要ナキ場合トノ區別ニ付キ按スルニ左ノ二ノ場合ニ在リテハ其必要ナシ

第一　既ニ出生ノ身分登記又ハ棄兒發見ノ身分登記アル子　此ノ如キ子ニ付キテハ更ニ棄兒發見ノ登記ヲ爲ササルモ其者ノ身分ハ明確サリ

第二　未タ出生ノ身分登記又ハ棄兒發見ノ身分登記ナキモ其子カ戸籍法第百

九十七條ノ規定ニ依リ就籍ノ届出ヲ爲スヲ得ル意思能力アルトキハ届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セサル者ハ戸籍法第百九十七條ニ依リ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス然ルニ父母ノ知レサル子ニシテ未タ出生ノ身分登記又ハ棄兒發見ノ身分登記ナキトキハ其子ハ未タ本籍ヲ有セサル者ナルカ故ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要シ就籍ノ届出ニハ戸籍法第百九十八條ノ規定ニ依リ其身分關係ヲ記載スヘキモノナルカ故ニ就籍ノ届出ヲ爲スニ於テハ其身分ハ明確ト爲ルヘキモノナリ又其子ハ就籍ノ届出ハ意思能力ナキ者ハ事實上之ヲ爲スコト能ハサルハ言フマテモナシ然レトモ苟モ意思能力アル以上ハ其年齢ニ拘ラス之ヲ爲スコトヲ妨クルヲ要セス而シテ父母ノ知レサル子カ就籍ノ届出ヲ爲スニ足ル意思能力アルトキハ自ラ就籍ノ届出ヲ爲シ自己ノ身分ヲ明確ニスルヲ得然レトモ此ノ如キ場合ニハ他人ニ棄兒發見ノ届出ヲ爲スヘキ義務ヲ負ハシムルヲ必要ナシト爲サナルヘカラス

以上第一、第二ノ場合ニ當ラサル父母ノ知レサル子ニ付キテハ其年齢ノ如何ニ拘ラス棄兒發見ノ届出ヲ爲スヘキモノナリト爲スヲ予ハ戸籍法ノ精神ニ適合スト信ス隨テ例ヘハ父母ノ知レサル子ノ年齢カ既ニ三四十歳ニ達シタルトキト雖其者ニ付キ未タ出生ノ身分登記又ハ棄兒發見ノ身分登記ナク且ツ其者ハ白痴ニシテ自ラ就籍ノ届出ヲ爲スコト能ハサルカ如キ場合ニ在リテハ尚ホ其者ニ付キ棄兒發見ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

棄兒ヲ發見シタル者ハ其發見シタル時ヨリ二十四時間内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス（戸第七五條第一項）

棄兒發見ノ届出ニ付キテノ戸籍吏ノ管轄ニ關シテハ戸籍法ニ別段ノ規定ナキカ故ニ其發見シタル地ノ戸籍吏ニ之ヲ届出ツルコトヲ要スルモノナリト解セサルヘカラス

棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戸籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且ツ之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ場所、年月日時其他ノ景況並ニ其兒ノ出生ノ推定年月、氏名、男女ノ別、引受人ノ氏名、職業、本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號並ニ場所及ヒ引渡

ノ年月日ヲ調書ニ記載シ之ヲ屆書ニ添ヘ置クコトヲ要ス(第七五條第二項)

(注意)(イ)　出生ノ屆出ナキ子ニ在リテハ未タ公認ノ名ナシ且ツ棄兒ハ父母ノ知レサル子ニシテ一家ヲ創立スヘキ者ナルカ故ニ未タ氏ナシ是ヲ以テ戸籍吏ヲシテ其子ニ氏名ヲ命セシムルナリ

(ロ)　附屬スル衣服其他ヲ調書ニ記載セシムルハ他日父又ハ母カ現出シテ其子ヲ引取ルコトアルヘキヲ慮リ父又ハ母ヲシテ自己ノ子ナルコトヲ確知スルヲ得セシムル便宜ヲ與ヘンカ爲メナリ

(ハ)　棄兒ノ出生ノ年月日ニシテ若シ明確ナルトキハ調書ニ之ヲ記載スヘキモノトス然レトモ通例ハ其出生ノ年月日明確ナラサルモノトス故ニ其明確ナラサル場合ニ在リテハ戸籍吏ヲシテ其棄兒ノ身體ノ發育等ノ情況ニ依リ出生ノ年月ヲ推定セシメ之ヲ調書ニ記載セシムルナリ

(ニ)　棄兒發見ノ屆出アリタルトキハ一私人若クハ公設又ハ私設ノ育兒院ヲシテ其養育ヲ取扱ハシム一私人ヲシテ之ヲ取扱ハシムルトキハ其一私人ヲ引受人ト曰フ

前項ニ依リ戸籍吏カ作製シタル調書ハ身分登記ニ付キテハ之ヲ屆書ト看做シ(戸第七五條第四項)其調書ニ基キ戸籍吏ヲシテ棄兒發見ノ身分登記ヲ爲サシメ且ツ棄兒カ日本人ナルトキハ戸籍吏ヲシテ戸籍ヲ作ラシム

(注意)(イ)　棄兒ハ父母ノ知レサル子ナルカ故ニ一家ヲ創立ス然レトモ棄兒發見ノ屆出アリタルトキハ戸籍吏ハ調書ヲ作リ之ニ基キ身分登記ヲ爲シ戸籍ヲ作ルヘキモノナルヲ以テ別ニ一家創立ノ屆出及ヒ登記ヲ爲スコトヲ要セス

(ロ)　身分登記簿ニ本籍人登記簿ト非本籍人登記簿トノ二種アリ棄兒カ日本人ナルトキハ其發見セラレタル地ニ於テ本籍ヲ有スヘキモノナルカ故ニ棄兒發見ノ登記ハ本籍人登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス日本人ニアラサルトキハ非本籍人登記簿ニ登記スルコトヲ要ス

(ハ)　棄兒ハ其父母知レサルモノナルカ故ニ父又ハ母ノ國籍ニ依リ棄兒ノ國籍ヲ定ムルヲ得ス　棄兒ハ其父母知レサルモノナルカ故ニ父又ハ母ノ國籍ニ依リ棄兒ノ國籍法ノ規定ニ依ルトキハ日本ニ於テ生マレタル子ノ父母其ニ知レサルト

キハ其子ヲ日本人トス(國籍法第四條)故ニ棄兒カ日本人ナルヤ否ヤハ其日本ニ於テ生マレタル者ナルヤ否ヤヲ戸籍吏カ諸般ノ情況ニ依リテ判斷シ之ヲ定ムヘキモノトス

(二)戸籍ハ日本人ニ付キテノミ之ヲ作ルヘキモノナルカ故ニ(戸籍法第七〇條)戸籍吏カ棄兒ヲ外國人ナリト認定シタルトキハ戸籍ヲ作ルコトヲ要セス

(ホ)棄兒發見ノ屆出ヲ爲サシムルハ棄兒ノ身分ヲ明確ニスル必要アルカ爲メナリ然ルニ棄兒カ日本人ナルトキハ其者ノ本籍ヲ定ムルコトハ其者ノ身分ヲ明確ナラシムルコトニ於テ最モ必要ナル事項ノ一ナリ然ルニ戸籍法ニハ如何ナル地ヲ以テ棄兒ノ本籍地ト爲スヘキヤ又何人カ之ヲ定ムヘキヤニ付キ何等別段ノ規定ナシ予ハ戸籍法ハ戸籍吏ヲシテ任意ニ其管轄區域内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得セシメタルモノナリト爲スヲ正當ナリト信ス何トナレハ(一)本籍ヲ定メサレハ日本人ナルコト明カナラス(二)父母知レサル者ナルカ故ニ父母ハ母ノ本籍ニ依リ定ムルニ由ナシ(三)棄兒發見ノ屆出ヲ受理シタル戸籍吏以外ノ者ニ之ヲ定メシムヘキ理由ナシ(四)棄兒發見ノ屆出ヲ受理シタル戸籍吏ノ管轄地以外ニ本籍地ヲ定ムヘキ理由ナシ結局屆出ヲ受理シタル戸籍吏カ職權ヲ以テ任意ニ其管轄區域内ニ於テ之ヲ定ムヘキモノト爲スノ外ナケレハナリ

棄兒ノ本籍ニ付キテハ其戸籍ニハ單ニ市區町村ノ名ノミヲ記シ大字及ヒ番地ノ如キハ之ヲ記載スヘキ限ニ在ラストノ說アリ然レトモ本籍ハ市區町村ノ如キ大ナル區域ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノニアラサルコトハ本籍ノ性質ヨリスルモ又戸籍法第百七十一條ノ規定ヨリ觀ルモ明カナルカ故ニ予ハ戸籍吏ハ其管轄區域内ニ於テ一定ノ場所ヲ指定シ(例ヘハ何市、何區何町、何番地ト謂フカ如シ)之ヲ以テ棄兒ノ本籍地ト定ムヘキモノナリト信ス

(ヘ)父母共ニ知レサル子カ日本人ナルトキハ一家ヲ創立スヘキモノナルカ故ニ棄兒發見ノ登記ハ戸籍法第百八十條ニ所謂新ニ家ヲ立ツヘキ事件ノ登記ニ屬ス隨テ戸籍吏ハ其登記ヲ爲シタル後同條ニ依リ棄兒ノ戸籍ヲ作ルコトヲ要ス

棄兒發見ノ身分登記ヲ爲シタル後引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙

方ヨリ其者ヲ戸籍吏ニ屆出ツルコトヲ要ス(戸第七五條第三項)

此屆出ノ管轄ニ付キテハ特別ノ規定ナキモ棄兒發見ノ登記ヲ爲シタル其戸籍吏ニ之ヲ屆出ツヘキモノナリト信ス

戸籍吏ハ右ニ述ヘタル屆出ヲ受理シタルトキハ其屆出ニ基キ登記ヲ爲スコトヲ要ス

棄兒發見ノ屆出アリテ戸籍吏カ其登記ヲ爲シタル後棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ其父又ハ母ハ一箇月内ニ前(弐)マテニ説明シタル普通ノ手續ニ從ヒ其子ノ出生ノ屆出ヲ爲シ且ツ棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第七六條)

(注意)(イ)棄兒發見ノ登記アル場合ニ若シ其子カ私生子ナルトキハ父又ハ母ハ後ノ第四節ニ説明スル私生子認知ノ屆出ヲ爲スニアラサレハ第七十六條ノ屆出及ヒ申請ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ棄兒發見ノ登記アルトキハ其子ハ父母知レサル爲メ一家ヲ創立シタルモノトシテ取扱ハルルカ故ニ父又ハ母ハ先ツ認知ノ手續ヲ爲スニアラサレハ其兒ヲ自己ノ子ナリト主張スルヲ得サレハナリ

次ニ若シ其兒カ嫡出子ナルトキハ父又ハ母ハ認知其他ノ手續ヲ爲サスシテ直チニ第七十六條ノ屆出及ヒ申請ヲ爲スヘキモノトス

(ロ)棄兒發見ノ登記ハ父母共ニ知レサル爲メ已ムヲ得サルニ出テタル變則ノ手續ナリ故ニ後ニ至リ父又ハ母カ知レタルトキハ此變則ノ手續ヲ取消シ正則ノ手續ヲ爲サシムルヲ正當ナリト爲シ第七十六條ノ規定ヲ設ケタルモノナリ

(ハ)第七十六條ノ手續ヲ爲シタルトキハ其棄兒ハ初ヨリ一家ヲ創立セサリシコトト爲リ其屬スヘキ家ハ出生ノ場合ニ關スル一般ノ規定(民法第七三三條第一項、第二項第七三四條、第七三五條)ニ依リテ定マルモノトス

(弐)屆出前ニ子カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見ノ屆出ヲ爲サヌ前ニ於テ出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見ノ屆出ヲ爲シ且ツ死亡ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第七七條)

(注意)(イ)死胎ヲ分娩シタル場合ニ在リテハ第七十七條ノ屆出ヲ爲スコト

ヲ要セス何トナレハ死胎ハ人ニアラサレハナリ

(ロ) 胎兒カ生命ヲ保有シテ出生シタル場合ニ在リテハ出生後間モナク死亡シタルトキト雖第七十七條ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

死亡シタル後ニ在リテハ出生又ハ棄兒發見ノ屆出ヲ爲サシムル要ナキカ如シ然レトモ苟モ一旦出生シタル以上ハ私權ヲ享有シタル者民法第一條ナルカ故ニ其者ノ身分ヲ明確ニシ置ク必要アルニ由リ死亡後ト雖出生又ハ棄兒發見ノ屆出ヲモ爲サシムルモソナリ

(ヘ) 航海中ニ子ノ出生シタルトキ　航海日誌ヲ備ヘタル船舶ノ航海中ニ其船舶内ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ限リ出生ノ屆出ヲ爲スヲ要セサルコトハ前(ニ)ニ於テ之ヲ説明シタリ此場合ニ限リ出生ノ屆出ヲ爲スコトヲ要セストスレハ出生ノ屆出ニ代ルヘキ他ノ特別ノ手續ナカルヘカラス而シテ戸籍法第七十八條ハ此特別ノ手續ヲ規定シタルモノナリ

以下ニ於テ戸籍法第七十八條ニ規定シタル特別ノ手續ヲ説明スヘシ

航海日誌ヲ備ヘタル船舶ノ航海中ニ其船舶内ニ於テ子ノ出生アリタルトキハ

艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乘船者中ヨリ選ヒタル證人ノ前ニ於テ戸籍法第六十八條ニ掲ケタル諸件(出生ノ屆出ヲ爲ス場合ニ於テ其屆書ニ具備スヘキ要件ナリ前(ヱ)參照)ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名捺印シ且ツ證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第七八條第一項)

(注意) (イ) 證人ニ關シテハ年齢其他ノ制限ナシ故ニ成年ニ達シタルト否トヲ問ハス又男タルト女タルトヲ問ハス證人タルコトヲ得ト雖證人タルニ堪フルノ意思能力アルコトヲ必要トス

(ロ) 第七十八條第一項ノ規定ニ依ル航海日誌ノ記載ハ屆書ニアラサルカ故ニ此記載ニ關シテハ戸籍法第五十二條ヲ適用スヘキ限ニ在ラスト雖略字又ハ符號ヲ用ヒス字畫ヲ明瞭ナラシメ年月日及ヒ年齢ヲ記スルニハ一、二、三、十ノ字ヲ用ヒスシテ壹、貳、參、拾ノ字ヲ用ユルヲ相當ナリトス

右ノ手續ヲ爲シタル後其艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス(戸第七八條第二項)

（注意）（イ）航海日誌ノ謄本カ戸籍法第六十八條ノ要件ヲ具備セサルトキハ戸籍吏ハ之ヲ受理スルコトヲ要ス（戸第一六條）

但シ司法省ハ航海日誌ノ謄本カ第六十八條ノ要件ヲ要備セサル場合ト雖戸籍吏ハ之ヲ受理シ登記ヲ爲スヲ要ストノ見解ヲ採ルモノノ如シ（東京區裁判所監督判事請訓ニ對スル明治三十二年七月六日附民刑局長回答參照）

（ロ）艦長又ハ船長ヨリ航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル戸籍吏カ爲スヘキ手續ニ付キテハ（ハ）以下ヲ參照スヘシ

若シ艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付スルコトヲ要シ公使又ハ領事ハ三箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送スルコトヲ要シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍地ニ發送スルコトヲ要ス（第七八條第三項）

（注意）（イ）子カ嫡出子ナルトキハ父ト母トノ本籍地ハ同一ナリ

子カ父ノ認知セサル私生子ナルトキハ父ナキカ故ニ母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スヘキモノトス

子カ庶子ナルトキハ父ノ本籍地ト母ノ本籍地ト同一ナルコトアリ相異ナルコトアリ父ト母トノ本籍地カ同一ナラサル場合ニ於テハ兩地ノ戸籍吏ニ各別ニ之ヲ發送スヘキカ其孰レカ一方ノ地ノ戸籍吏ニ之ヲ發送スヘキカハ疑問ナリ此點ニ關シテハ戸籍法ノ規定不備ナルカ故ニ斷定ヲ下シ難シト雖左ノ如ク解釋スルヲ穩當ナリト信ス

一　外務大臣ハ公使又ハ領事ヨリ受取リタル其航海日誌ノ謄本ヲ戸籍吏ニ發送スヘキモノナリ然ルニ謄本ハ一通ナルカ故ニ之ヲ兩地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ得ヘカラス結局父ノ本籍地ノ戸籍吏又ハ母ノ本籍地ノ戸籍吏ノ孰レカ一方ニ之ヲ發送スレハ足ルト爲スノ外ナシ而シテ之ヲ其孰レノ一方ニ發送スヘキカニ付キテハ二ニ掲クル區一ニ從フヘキモノナルヘシ

二　子カ父ノ家ニ入ルヘキ場合ニ在リテハ父ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ發送スヘク子カ母ノ家ニ入ルヘキ場合ニ在リテハ母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ發送スヘシ

子カ父ノ家ニモ母ノ家ニモ入ルコト能ハサル場合(民法第七三五條參照)ニ在リテハ父ノ本籍地ノ戸籍吏又ハ母ノ本籍地ノ戸籍吏ノ裁レニ之ヲ發送スルモ可ナリ

外務大臣ヨリ航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル戸籍吏カ爲スヘキ手續ニ付キテハ(元)以下ヲ參照スヘシ

之ヲ要スルニ航海中ニ出生アリタル場合ニ關シ以上ニ述ヘタル如キ特別ノ手續ヲ設ケタルハ實際ノ便宜ヲ主トシタルモノナリ

第三節　嫡出子否認ニ關スル屆出

(㊀)總論　本節ニ於テハ嫡出子否認ニ關スル屆出ノ手續即チ戸籍法第二章第三節ノ規定ヲ說明スヘシ

民法第八百二十條ノ場合ニ於テハ子ハ夫ノ子即チ嫡出子ト推定セラルルモ夫其他ノ者ハ同法第八百二十二條又ハ人事訴訟手續法第二十九條ノ規定ニ依リ訴ヲ以テ其子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルヲ得ヘク(第一〇四頁甲參照)否認ノ訴ニ於テ原告勝訴ノ判決確定スルトキハ其判決ノ效力トシテ子ハ出生ノ當時ヨリ夫ノ子ニアラサリシコトト爲ル

(注意)　嫡出子ノ否認及ヒ其訴訟手續ニ付キテハ民法第八百二十條乃至第八百二十六條及ヒ人事訴訟手續法第二章ノ規定ヲ參照スヘシ

嫡出子否認ノ訴ハ嫡出子ナリトノ法律上ノ推定ヲ覆スコトヲ以テ其目的ト爲ス故ニ原告勝訴ノ判決確定スルトキハ子ハ其時ニ於テ嫡出子タル身分ヲ喪失スルニアラスシテ出生ノ當初ヨリ嫡出子ニアラサリシコトト爲ルモノナリ

夫ノ子ト推定セラレタル者ニ付キ其推定カ覆サレ夫ノ子ニアラサルコト確定スルトキハ其子ノ身分ニ變動アリ是レ即チ嫡出子否認ニ關スル屆出ノ規定アル所以ナリ

(㊁)屆出ノ手續　嫡出子否認ノ訴ニ於テ原告勝訴ノ判決カ確定シタルトキハ否認者即チ原告ハ其判決確定ノ日ヨリ一箇月內ニ左ノ謄件ヲ具シ判決ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ屆出ツルコトヲ要シ且ツ既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付キテ

ハ其登記ノ變更ヲモ申請スルコトヲ要ス(戸籍七九條)

一　子ノ名及ヒ男女ノ別

二　出生ノ年月日

三　否認ノ判決確定シタル年月日

(注意)　夫ハ妻カ生ミタル子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖嫡出子出生ノ屆出ヲ爲スヲ要スルコトハ戸籍法第七十二條ノ規定スルトコロナリ而シテ此規定ニ基キ夫カ其子ノ出生ノ屆出ヲ爲シタル後否認ノ判決確定シタル場合ニ在リテハ出生ノ登記ニ記載シアル其子ノ身分ト否認ノ判決ニ因リテ定マリタル其子ノ身分トハ相異ナルカ故ニ此場合ニ於テハ否認ノ屆出ヲ爲サシムル外既ニ爲シアル出生ノ登記ノ變更ヲモ申請セシムルコトト爲シタルモノナリ

右ニ述ヘタル屆出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キテハ別段ノ規定ナキカ故ニ其管轄ニ付キテハ通則タル戸籍法第四十二條ノ規定ニ從ハサルヘカラス次ニ變更ノ申請ハ變更セラルヘキ原登記即チ出生ノ登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲スヲ要スルコトハ言フヲ俟タス

否認ノ判決確定前既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル子ニ付キテハ判決確定後否認ノ屆出ヲ爲シ且ツ出生ノ登記變更ノ申請ヲ爲ス外別ニ何人ヨリモ出生ノ屆出ヲ爲スコトヲ要セス然レトモ未タ出生ノ登記ナキ子ニ付キ否認ノ判決確定シタルトキハ否認者ヨリ否認ノ屆出ヲ爲ス外其子ノ父又ハ母ヨリ前節ニ述ヘタル所ニ從ヒ出生ノ屆出ヲ爲ササルヘカラス

第四節　私生子認知ニ關スル屆出

(ニ)　總論　本節ニ於テハ私生子認知ニ關スル屆出ノ手續即チ戸籍法第二章第四節ノ規定ヲ說明スヘシ

私生子(ヌ)(參照)ハ父又ハ母ニ於テ民法第八百二十七條乃至第八百三十一條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ認知スルコトヲ得

(注意)　父又ハ母カ子其他ノ者ノ請求ニ因リテ認知ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ關シテハ後ノ(ネ)ニ至リ之ヲ說明スヘシ

認知ニ關スル實體法上ノ要件ハ場合ニ依リテ異ナル即チ左ノ如シ

第一　未成年ノ私生子ハ其父又ハ母ニ於テ他人ノ承諾ヲタシテ之ヲ認知スルコトヲ得(民法第八二七條)

第二　成年ノ私生子ハ其承諾アル場合ニ限リ父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得(民法第八三〇條)

第三　胎内ニ在ル子ハ父ニ限リ母ノ承諾ヲ得テ之ヲ認知スルコトヲ得(民法第八三一條第一項)

第四　死亡シタル子ハ其直系卑屬アルトキニ限リ父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得但此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス(民法第八三一條第二項)

(注意)(イ)以上第一乃至第四ノ就レノ場合タルヲ問ハス父又ハ母カ無能力者ナルトキト雖其法定代理人保佐人又ハ夫ノ同意又ハ許可ヲ得ルコトヲ要セス(民法第八二八條)

(ロ)子其他ノ者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要スル第二乃至第四ノ場合ニ於テ其者カ承諾ヲ爲ササルトキ又ハ心神喪失等ノ事情ニ因リ承諾ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ認知ヲ爲スコトヲ得ヘカラス

認知ハ要式ノ意思表示ニシテ其方式ニ二種アリ其一ハ戸籍吏ニ對スル屆出ニシテ其二ハ遺言ナリ(民法第八二九條)

第一　戸籍吏ニ對スル屆出ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ在リテハ認知ノ效力ヲ生セシメンカ爲メニ屆出ヲ爲スモノナルカ故ニ屆出人ハ戸籍法上ノ義務トシテ屆出ヲ爲スニアラス隨テ無能力者タル父又ハ母カ認知ヲ爲サント欲スルトキト雖自ラ其屆出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第四六條第四七條)又認知ヲ爲スモ爲ササルモ其任意ナルカ故ニ屆出ヲ爲ササレハトテ過料ニ處セラルルコトナシ

第二　遺言ニ依リテ認知ヲ爲サント欲スルトキハ民法第千六十七條乃至第千八十六條ニ定メタル方式ニ從ヒテ其遺言ヲ爲スコトヲ要ス遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ在リテハ遺言者ノ死亡ノ後遺言執行者ヨリ戸籍法第八十三條ノ規定ニ從ヒテ認知ノ屆出ヲ爲スコトヲ要スレトモ

前ノ場合ト異ナリ認知ノ效力ヲ生セシメンカ爲メニ屆出ヲ爲スニアラス進言ノ方式ニ依リテ表示セラレタル認知カ其效力ヲ生シタル後其認知ニ付キ戸籍法上ノ義務トシテ屆出ヲ爲スコトヲ要スルモノタリ隨テ若シ屆出ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ過料ニ處セラル

私生子認知ノ效力ハ次ノ如シ

第一　事實上ノ父カ認知シタルトキ　私生子ノ事實上ノ父ハ法律上ノ父ニアラス故ニ事實上ノ父ノ認知ナケレハ事實上ノ父ト私生子トノ間ニ法律上親子ノ關係ナク認知ニ因リ始メテ法律上親子ノ關係ヲ生ス而シテ事實上ノ父カ認知シタルトキハ私生子ハ父ニ對シテハ庶子ト爲ル(民法第八二七條)

第二　事實上ノ母カ認知スルトキ　私生子ノ事實上ノ母ハ法律上ニ於テモ亦當然母タリ(認知ナケレハ事實上ノ母ト私生子トノ間ニ法律上母子ノ關係ヲ生セストノ說アリ然レトモ我國ノ從來ノ慣例ハ事實上ノ母ハ法律上ニ於テモ亦當然母タルコトヲ認メタルノミナラス民法ニハ此點ニ付キ從來ノ慣例ヲ變更シタリト解釋スルニ足ル規定ナシ故ニ事實上ノ母ト私生子トノ間ニ

法律上母子ノ關係ヲ生セシムル爲メニハ認知ヲ必要トセス然レトモ棄兒ノ如キ何人カ母ナルカ明カナラサル者ニ付キテハ認知ニ因リ母子ノ關係ヲ明確ニスル必要アリ

第三　婚姻中事實上ノ父母カ認知シタルトキ　私生子ハ嫡出子タル身分ヲ取得ス(民法第八三六條)妻ト子トノ關係明確ナルトキハ夫ノミノ認知アレハ足ル

第四　事實上ノ父又ハ母ニアラサル者カ認知シタルトキ　事實上ノ父又ハ母ニアラサル者カ事實上ノ父母ナリトシテ認知シタルトキハ事實上ノ父又ハ母カ認知シタルトキト同一ノ效力ヲ生ス而シテ認知者ハ認知ヲ取消シ又ハ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得サルモ子其他ノ利害關係人ハ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ妨ケス(民法第八三三條第八三四條)

民法第八百三十二條ニ(認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス)ト規定シアリテ(婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ民法第八百三十六條ノ規定ニ因リ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分

ヲ取得スルモノナルカ故ニ嫡出子タル身分ヲ取得スル效力ハ既往ニ遡ルコトナシ(同法第七百三十三條及ヒ第七百三十五條ニハ子ノ入ルヘキ家ニ關スル定アルカ故ニ認知セラレタル子ノ屬スヘキ家ハ場合ニ依リテ異ナル大要左ノ如シ)

一　胎内ニ在ル間ニ父カ認知シタル子　出生ノ當時ニ於テ其子ハ直チニ庶子タリ故ニ父カ戸主ナルトキハ民法第七百三十三條ニ依リテ父ノ家ニ入リ父カ戸主ニアラサルトキハ出生ノ時マテニ其入ルヘキ家ノ戸主ノ同意アリタルト否トニ因リ民法第七百三十三條及ヒ第七百三十五條ノ區別ニ從ヒ其屬スヘキ家定マル(吳ノ五參照)

二　出生後家族タル父カ認知シタル子　認知ノ效力ハ出生ノ時ニ遡ル結果其子ハ出生ノ時ニ於テ庶子タリシコトト爲ルト雖父ノ家ノ戸主ノ同意ナカリシ狀態ハ之カ爲メ變更ヲ受クヘキニアラス又認知ノ後父ノ家ノ戸主カ同意ヲ爲シタレハトテ其同意ノ效力ハ既往ニ遡ルヘキニモアラス隨テ其子ハ出生ノ時ニ於テ入リタル家ニ止マルヘク家族タル父ノ認知アルモ之カ爲メ其子ハ當然父ノ家ニ轉屬スルカ如キコトナシ(吳ノ五參照)

三　出生後戸主タル父カ認知シタル子　子ノ出生ノ當時父カ家族ニシテ出生ノ後認知ノ前ニ戸主ト爲リタル者ナルトキハ認知ノ效力ハ出生ノ時ニ遡ルニ拘ラス出生ノ當時ニ於ケル戸主ノ同意ナケレハ其子ハ父ノ家ニ入ルコト能ハサルモノナルカ故ニ此場合ニ在リテハ前二ニ述ヘタルトコロト同シ』之ニ反シテ子ノ出生ノ當時ヨリ父カ引續キテ戸主ナルトキハ認知ニ因リ出生ノ時ヨリ庶子タリシコトト爲リタル子ハ何人ノ同意ヲモ要セスシテ父ノ家ニ入ルヘカリシモノナリト雖認知ノ效力ハ第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得サル結果場合ニ依リテ左ニ掲クル差異ヲ生ス(吳ノ五參照)

甲　子カ出生ノ時ニ於テ母ノ家ニ入リタルモノナルトキハ其後ニ至リ父ノ認知アルモ母ノ家ノ戸主ノ戸主權ヲ害スルコト能ハサル結果其子ハ依然トシテ母ノ家ニ止マルモノトス

乙　子カ出生ノ時ニ於テ一家ヲ創立シ家族アルニ至リタル後父カ認知シタルトキハ創立シタル家ノ家族ノ戸主ニ對スル權利ヲ害スルコト能ハサル

結果其子ハ依然トシテ其家ニ止マルモノトス

丙　子カ出生ノ時ニ於テ一家ヲ創立シタルモ隠居廢家、婚姻、養子縁組其他ノ事由ニ因リ其家又ハ他家ノ家族ト爲リタル後父カ認知シタルトキハ甲ニ準ジ

丁　子カ出生ノ時ニ於テ一家ヲ創立シ家族アルニ至ラサル間ニ父カ認知シタルトキハ其子ハ出生ノ時ニ於テ庶子トシテ父ノ家ニ入リタリシコトト爲リ始ヨリ一家ヲ創立セサリシコトト爲ル

(注意)母カ認知シタル場合ニ於ケル子ノ所屬ノ家ニ付キテハ以上ニ準ジタルトコロニ依リ之ヲ推理スヘシ

(壹)認知ノ效力ヲ生セシムル爲メニ爲ス屆出ノ手續

左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(戸第八〇條)

一　子ノ名及ヒ男女ノ別

二　子ノ出生ノ年月日

三　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ其死亡ノ年月日

二條但シ夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ檢事ハ斯ル權限ヲ有スルコトナシ蓋シ斯ル場合ニ於テハ公益上檢事ヲシテ婚姻ヲ取消サシムルノ必要ナケレハナリ(第二二條但書(4)檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トシ(夫婦及ヒ第三者當事者ノ一方カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ一方ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事原告トシテ又ハ人事訴訟手續法第二十二條ニ依リ下級審ニ關係シタルトキ)ヲ以テ相手方トス而シテ相手方全員ハ民事訴訟法第五十條ノ意味ニ於ケル必要的共同訴訟人ナリ是レ上訴審ニ於テ下シタル判決ヲ總當事者ニ對シテ效力アラシムルカ爲メナリ

第二章　養子縁組事件ニ關スル手續

(一)　養子縁組事件ノ意義及ヒ手續ノ特質　養子縁組事件トハ養子縁組ノ無效若クハ取消又ハ離縁ヲ目的トスル訴訟事件ノ總稱タリ(民法第八五一條以下、第八六二條以下)而シテ養子縁組ハ婚姻ト同シク社會的生活上必要ナル制度ニシテ國家ハ養子縁組ニ關スル各訴訟ノ結果ニ付キ公益上少カラサル關係ヲ有ス

故ニ國家ハ訴訟手續ニ關シ特則ヲ設ケ該法則ニ編レナル限度ニ於テ通常民事訴訟法ニ依ルヘキモノト爲シタリ

(二)　管轄裁判所及ヒ檢事ノ共助　養子縁組事件ハ養親カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第二四條)該普通裁判籍ハ內國ニ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マリ最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル住所地ニ依リ定マルモノタリ(第二六條第一條第二項及ヒ第三項明治三十一年七月司法省令第八號)此ノ如ク地方裁判所カ事物ノ管轄權ヲ有スルハ裁判所構成法第二十六條ノ適用ニシテ又養親ノ普通裁判籍所在地ヲ管轄スル裁判所カ土地ノ管轄權ヲ有スルハ養子カ通常養親ト異ナレル住所ヲ有スルコトナキト民事訴訟法カ裁判籍ニ關シ原則トシテ屬地主義ヲ認メタルニ依ル而シテ法律カ普通裁判籍ヲ擴張シタルハ養子縁組事件ニ付キ裁判權ナキカ如キ缺點ヲ防止シタルニ外ナラス然レトモ例外トシテ婚姻事件ニ附帶シテ縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス蓋シ然ラスンハ附帶訴訟ヲ許スノ法意ニ反スルヲ以テナリ(第二四條)

檢事ハ養子縁組事件ニ關シテ亦婚姻事件ニ於ケルト同シク其助ヲ爲ス(第二六條第五條第六條)其詳細ハ婚姻事件ニ付キ爲シタル說明ヲ參考スヘシ

(三)　訴訟能力及ヒ訴　訴訟能力及ヒ訴ニ關シテハ婚姻事件ニ付キ爲シタル說明ヲ參考スヘシ(第二六條第三條第七條乃至第九條第二條)但シ養親カ禁治產者ナルトキハ其後見人カ親族會ノ同意ヲ得テ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得(第二五條第一項)又養子カ禁治產者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戶主カ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ蓋シ離縁ヲ爲スコトヲ得ル養子(民法第八七四條)カ禁治產者ナル場合ニ於テハ其後見人ハ養親(養家ノ戶主若クハ養家ニ於ケル親族會選任ノ後見人ナルヲ以テ(民法第九〇〇條乃至第九〇四條)養子ノ利益ヲ保護スルニ適當ナリト認スルコトヲ得サレハナリ(第二五條)

(四)　裁判所ノ職權及ヒ當事者ノ權限其他判決及ヒ假處分　此等ノ事項ニ關シテハ人事訴訟手續法第十條乃至第十八條ノ規定ヲ參考スヘシ(第二六條)

第三章　親子關係事件ニ關スル手續

(一)　親子關係事件ノ意義及ヒ手續ノ特質　親子關係事件トハ子ノ否認、認知其認知ノ無效若クハ取消、民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴訟事件及ヒ親權若クハ財產管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴訟事件ノ總稱タリ(民法第二〇條以下、第八二七條以下、第八九六條以下、人事訴訟手續法第二七條第三一條)而シテ親子關係事件ハ其性質上婚姻事件ト同シク公益ニ少カラサル關係ヲ有スルヲ以テ法律ハ特則トシテ婚姻事件ニ關スル法則ヲ準用シ該特則ニ反セサル限度ニ於テ通常民事訴訟手續ヲ適用セシム(第三九條)

(二)　管轄裁判所及ヒ檢事ノ共助　子ノ否認、認知、其認知ノ無效若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬シ又親權若クハ財產管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第二七條、第三一條)該普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マリ最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル住所地ニ依リテ定マル(第三五條第一項、第一條第三項、明治三十一年七月司法省令第八號)此ノ如ク地方裁判所カ事物ノ管轄權ヲ有スルハ裁判所構成法第二十六條ノ適用ニシテ子及ヒ親權ヲ行フ者カ有スル普通裁判籍所在地ノ管轄裁判所カ土地ノ管轄權ヲ有スルハ審判ノ便宜アリト認メ及ヒ屬地主義ヲ認メタルトノ理由ニ出テタルニ外ナラス

檢事ハ親子關係事件ニ關スル手續ニ於テモ婚姻事件ニ於ケルト同シク共助ヲ爲ス(第三七條第一項、第三九條第一項、第五條是レ親子關係事件ノ結果ハ公益ニ關係スルコト婚姻事件ノ結果ト同一ナレハナリ

(三)　訴訟能力及ヒ訴　訴訟能力ニ關シテハ婚姻事件ニ付キ爲シタル說明ヲ參考スヘシ(第三九條第一項、第三條)但シ子ノ否認ノ訴ニ關シテハ夫カ禁治產者ナ

ルトキハ其後見人カ親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ提起スルコトヲ得(第二八條)(第四條ノ説明參考)又夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セスシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限リ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得民事訴訟法ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ提起スルコトヲ要ス夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得(第二九條民事訴訟法第一七八條以下此ノ如ク起訴ニ一年ノ制限ヲ付シタルハ民法第八百二十五條ト同一法意ニシテ又相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限リ訴訟ヲ爲スコトヲ許シタルハ利益ヲ防禦シ若クハ夫ノ最近親ヲシテ夫ノ意思ヲ主張スルコトヲ得セシムルノ法意ニ出ツ其他子ノ否認及ヒ認知ノ訴ニ關シテハ他ノ訴ヲ之ニ併合シ又ハ反訴トシテ提起スルコトヲ得ス(第三九條第一項)第七條第二項及ヒ同條ノ説明參考)子ノ否認ノ訴ノ棄却ニ因リ婚姻關係ノ確定ヲ來スヲ以テ他ノ訴殊ニ認知ノ訴ハ否認ノ訴ニ併合シ又ハ反訴トシテモ許スヘカラサレハナリ

子ノ認知ノ無效及ヒ其取消ヲ目的トスル訴ニ關シテハ人事訴訟手續法第七條乃至第九條ノ規定ヲ準用ス(第三九條第一項及ヒ第二項)故ニ子ノ認知ノ無效ノ訴及ヒ其取消ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得レトモ他ノ訴ヲ併合シ又ハ反訴トシテ提起スルコトヲ得ス又第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得レトモ請求棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス(婚姻事件ニ付キ爲シタル説明參考)

父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ニ關シテハ利害關係アル子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得而シテ母ノ配偶者カ該訴ヲ提起スルニハ母ノ前配偶者ヲ以テ相手方トシ母ノ前配偶者カ該訴ヲ提起スルニハ母ノ配偶者ヲ以テ相手方トシ子又ハ母カ該訴ヲ提起スルニハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス(第

三〇條是レ該訴ノ性質ノ然ラシムル所ナリ相手方ト爲ルヘキ者カ死亡シタル後ハ人事訴訟手續法第二條第三項乃至第五項ノ規定ニ從フ(第三九條第四項)(此點ニ關シテハ婚姻事件ニ付キ爲シタル說明ヲ參考スヘシ其他此訴ニハ人事訴訟手續法第七條第二項ヲ準用ス(第三九條第一項前述說明參考)

親權若クハ財產管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴ニ關シテハ子ノ親族又ハ檢事カ父又ハ母ヲ相手方トシテ起訴シ(民法第八九六條第八九七條)又失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ關シテハ本人又ハ其親族カ(民法第八九八條)現ニ親權若クハ管理權ヲ行フ者(母)又ハ後見人ヲ以テ相手方トシテ起訴ス(第三二條是レ該訴ノ性質ノ然ラシムル所ナリ此二者ノ訴ニハ人事訴訟手續法第七條乃至第九條ノ規定ヲ準用シ(第三九條第一項第二項)(前述參考)又親權若クハ財產ノ管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴ニハ人事訴訟手續法第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス(第三九條第三項)蓋シ此訴ハ檢事カ提起スルコトヲ得ルモノナレハナリ

(四)裁判所ノ職權及ヒ當事者ノ權能　親子關係事件ニ於テハ婚姻事件ニ於ケルト同シク公益上職權訴訟進行主義ヲ是認シ當事者訴訟專行主義ヲ制限シタルヲ以テ又當事者ハ訴訟ノ目的ニ付キ公益ニ關ルル以上ハ直接及ヒ間接ニ處分ヲ爲スノ權能ナキカ故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ命シ且ツ當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得(第三七條第二項第一四條參考)但シ其事實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ又人事訴訟手續法第十條及ヒ第十二條ノ規定ハ親子關係事件ニ準用セラル(第三九條第一項)(前述ノ說明參考)

(五)判決及ヒ假處分　親子關係事件ニ關スル判決及ヒ假處分ニ關シテ亦人事訴訟手續法第十一條第十六條乃至第十八條ノ準用アリ其理由ハ前述シタル所ト同一ナルヲ以テ之ヲ省略ス(第三九條第二項)

第四章　相續人廢除事件ニ關スル手續

(一)相續人廢除事件ノ意義及ヒ手續ノ特質　相續人廢除事件トハ推定家督相續人若クハ推定家督相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ノ總稱タリ(第三三條)第三四條民法第九七五條乃至第九七七條第九九八條乃至第一〇〇〇條)而シテ該事件亦其性質上公益ニ關係スル所少カラサルヲ以テ法律ハ特別

トシテ婚姻事件ニ關スル法則ヲ準用シ該法則ニ反セサル限度ニ於テ通常民事訴訟手續ヲ適用セシム(第三九條)

(二) 管轄裁判所及ヒ檢事ノ共助　相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第三三條是レ裁判所構成法第二十六條ノ適用ト審判ニ便宜アリト認メ且ツ屬地主義ヲ認メタルトニ外ナラス(第三九條第一項第一條第二項第三項明治三十一年七月司法省令第八號)又ハ檢事ハ公益上該訴訟事件ニ付キ共助ヲ爲ス(第三七條第一項第三九條第一項第五條)

(三) 訴訟能力及ヒ訴　訴訟能力ニ關シテハ婚姻事件ニ付キ爲シタル說明ヲ參考スヘシ(第三九條第一項第三條)相續人ノ廢除ヲ目的トスル訴ハ其性質上被相續人又ハ推定遺產相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トシテ提起スルモノタリ(民法第九七七五條乃至第九七七條第九九八條乃至第一〇〇〇條人事訴訟手續法第三四條)蓋シ後者ノ訴ニ於テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ト爲リタル者カ利害上反對ノ地位ニ立ツヘキモノナレハナリ但シ此等ノ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ人事訴訟手續法第二條第三項乃至第五項ノ規定ヲ準用ス(第三九條第四項)相續人ノ廢除又ハ其取消ヲ目的トスル訴ニ關シテハ尙ホ人事訴訟手續法第七條乃至第九條ノ規定ヲ準用ス(第三九條第一項及ヒ第二項)其說明ニ付テハ前述シタル所ヲ參照スヘシ

(四) 裁判所ノ職權、當事者ノ權限、判決及ヒ假處分　此等ノ事項ニ關シテハ人事訴訟手續法第三十七條第二項第十四條ノ說明參照第十條乃至第十二條第十六條乃至第十八條ノ規定ニ依ル(第三九條)其說明ニ關シテハ前述シタル所ヲ參考スヘシ

第五章　隱居事件ニ關スル手續

(一) 隱居事件ノ意義及ヒ手續ノ特質　隱居事件トハ隱居ノ無效又ハ取消ヲ目的トスル訴ノ總稱ナリ(民法第七五二條以下)人事訴訟手續法第三五條)而シテ隱居ハ戶主權ノ喪失ヲ來スヲ以テ隱居事件ノ結果ハ公益ニ影響スル所多シ故ニ國家ハ特則トシテ婚姻事件ニ關スル法則ヲ準用シ該法則ニ反セサル限度ニ於

ヲ通常訴訟手續ヲ適用セシム(第三九條)

(二) 管轄裁判所及ヒ檢事ノ共助　隱居ノ無效又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第三五條是レ裁判所構成法第二十六條ノ適用ト審判ニ便宜アリト認メ且ツ屬地主義ヲ認メタルトニ外ナラス(第三九條第一條第二項及ヒ第三項又檢事ハ公益上隱居事件ニ付キ共助ヲ爲ス(第三七條第一項第三九條第一項、第五條)

(三) 訴訟能力及ヒ訴　訴訟能力ニ關シテハ婚姻事件ニ付キ爲シタル說明ヲ參考スヘシ(第三九條第一項第三條)隱居ノ無效ノ訴ハ利害關係者カ之ヲ提起シ隱居ノ取消ノ訴ハ隱居者其親族、家督相續人其親族及ヒ檢事カ之ヲ提起ス(民法第七五八條、第七五九條)而シテ隱居者カ起訴スル場合ニ於テハ利害關係アル家督相續人ヲ以テ相手方トシ後者カ起訴スル場合ニ於テハ利害關係アル隱居者ヲ以テ相手方トシ隱居者及ヒ家督相續人ニ非サル者カ起訴スル場合ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人ヲ以テ相手方トシ(合一的ニ確定スヘキ法律關係ナルカ故ニ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トシ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス(第三六條、第三九條第四項第二條第三項乃至第五項)

隱居ノ無效又ハ取消ノ訴ニハ人事訴訟手續法第七條乃至第九條ノ規定ヲ準用ス(第三九條第一項及ヒ第二項又後者ノ訴ニハ人事訴訟手續法第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス(第三九條第三項蓋シ檢事ハ隱居取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得レハナリ(民法第七五八條第七五九條)此等ノ準用スヘキ規定ノ說明ハ前述シタル所ナリ

(四) 裁判所ノ職權、當事者ノ權能　裁判決及ヒ假處分　此等ノ規定ニ關シテハ人事訴訟手續法第三十七條第二項第一四條參考)第十條乃至第十二條、第十六條乃至第十八條ノ規定ニ依ル(第三九條其說明ハ前述シタル所ナリ

第六章　禁治產ニ關スル手續

(一) 禁治產ニ關スル手續ノ意義及ヒ其特質　禁治產ニ關スル手續ハ禁治產ノ

宣告及ヒ其取消ニ關スル訴訟手續ノ總稱タリ元來此手續ノ性質カ訴訟手續訴訟事件ナルヤ非訟手續非訟事件ナルヤノ問題ニ關シテハ學說區區ニ涉レリ我民事訴訟法ノ母法タル獨逸民事訴訟法ハ其理由書及ヒ司法委員會ノ議事錄ニ於テ明白ナルカ如ク費用節略ノ目的ヲ以テ佛普等ノ國法カ認メタル訴訟手續主義ト獨逸普通法及ヒ「アクセン」「バイエルン」等ノ國法カ認メタル非訟手續主義トヲ折衷シタリ蓋シ此折衷主義ニ從ヘハ禁治産ノ原因ノ存スルコト顯著ニシテ爭ナキ場合ヲ通常多シト爲ス禁治産ノ手續ニ於テ其當初民事訴訟ノ形式ニ依ルコトヲ要セサル結果トシテ當事者ヲシテ簡單ニシテ多額ノ費用ヲ要セサル手續ニテ其目的ヲ達セシムルニ至レハナリ故ニ「フッチング」氏ハ禁治産ニ關スル手續ヲ二分シ區裁判所ニ屬スル部分ヲ非訟事件トシ地方裁判所ニ屬スル部分ヲ訴訟事件ト言ヘリ而シテ斯ル立法上ノ沿革ト法理上ノ規定トヲ離レテ抽象的ニ論究スレハ「ワッハ」「ヘルマン」氏等ノ主張スルカ如ク禁治産ニ關スル手續ハ私權ノ確認及ヒ其實行ノ爲メニスル行爲ニアラスシテ後見ヲ付スヘキヤ否ヤノ前提要件ヲ確定スルカ爲メニスル行爲ナルヲ以テ訴訟事件ニアラスシテ非訟事件ニ屬スルモノト認ムルヲ正當トス然レトモ立法者カ禁治産ニ關スル手續ヲ民事訴訟法ノ一部タル人事訴訟手續法ニ規定シタル法意ヨリ論究セハ禁治産ニ關スル手續ハ其全體ニ於テ訴訟手續ニ屬シ法律上必要ナル狀態ヲ確定スルコトヲ目的トスル訴訟ナリト謂ハサルヲ得ス

禁治産ニ關スル手續ハ此ノ如ク民事訴訟事件ニ屬スルヲ以テ民事訴訟法ニ規定セラレタル通常民事訴訟ニ關スル通則ノ適用アルヤ當然ナリ然レトモ法律ハ費用ヲ節約シ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ノ權利ヲ保護シ且ツ公益ノ爲メニ申立人訴訟專行主義ヲ制限シテ職權訴訟進行主義ヲ認メ檢事ノ共助ヲ認メ且ツ裁判所ノ職權及ヒ檢事ノ共助ニ依リ禁治産ヲ受クル者ノ權利ノ完全ニ保護セラレサル場合ニ於テ本人竝ニ特定ノ人ニ許スナリ禁治産ノ宣告ニ對スル訴及ヒ禁治産取消申立却下ノ決定ニ對スル訴ヲ認メタリ

(二)　禁治産ノ宣告　禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ハ禁治産ノ申立ニ付キ專屬管轄ヲ有ス(第四〇條區裁判所カ事物ノ管轄權ヲ有スルハ前示ノ如ク當事者ヲシテ簡易ニシテ且ツ多額ノ費用ヲ要セサル

手續ニヲ其目的ヲ達セシムルコトヲ得職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ禁治産事件ヲ受クヘキ者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所カ土地ノ管轄權ヲ有スルハ審判ニ便宜アルト又民事訴訟カ裁判籍ニ關シ屬地主義ヲ認メタルカ爲メナリ(民事訴訟法第一〇條乃至第一三條(第一條第二項前述說明參考)管轄裁判所ニ附置セラレタル檢事局ノ檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ進行シ殊ニ禁治産ノ申立者カ之ヲ取下ケタル場合ニ於テ申立ヲ爲シテ其手續ヲ追行シ且ツ總テ期日ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得殊ニ禁治産ノ申立ニ贊成シ又ハ之ニ反對スルコトヲ得是ヲ以テ管轄裁判所ハ事件及ヒ期日ヲ檢事ニ通知シ且ツ裁判所書記ハ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テ其氏名及ヒ申立ヲ調書ニ記載スヘシ(第四五條)而シテ斯ル檢事ノ共助ハ其自由意見ニ任セラレタルモノナルヲ以テ檢事ノ立會サキカ爲メニ裁判ノ瑕瑾ト爲ラス其他人事訴訟手續法第五條ニ付キ爲シタル前述ノ說明ヲ參考スヘシ(管轄裁判所及ヒ檢事ノ共助)

人事訴訟ニ關スル裁判所ハ人事訴訟ニ關シ屬地主義ニ基キ管轄權ヲ有スル裁判所ハ禁治産ノ申立ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ申立ニ因リタルノミ禁治産ニ關スル裁判ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ禁治産事件亦一ノ訴訟事件ニ外ナラサルヲ以テ不告不理ノ原則ニ基キ申立アルヲ要スル筈然ナレハナリ(民法第七條「……請求ニ因リ……」)禁治産ノ申立權ヲ有スル者ハ本人、配偶者四親等內ノ親族、戶主、後見人保佐人又ハ檢事ナリ(民法第七條)禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ本人(本心ニ復スル場合ヲ豫想ス)ハ自己ノ利益ノ爲メニ、配偶者、四親等內ノ親族、戶主、後見人、保佐人等ハ禁治産者タルヘキ者ノ利益保護ノ爲メニ、又檢事ハ公益ノ爲メニ(心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ對シ適當ナル處分ヲ爲ササレハ社會ニ害アリ)禁治産ノ申立權ヲ有ス此等ノ申立權者ノ權利ハ同等ニシテ優劣ノ區別ナシ又獨立的ニシテ互ニ關係ヲ有セス但シ裁判所ハ民事訴訟法第百二十條ノ準用ニ依リ數多ノ申立ヲ併合スルコトヲ得ルヲ妨ケス此等ノ申立權者カ檢事ヲ除ク申立ヲ爲スニハ訴訟能力ヲ有セサルヘカラス訴訟無能力者タルトキハ法定代理人カ申立ヲ爲スヘキモノタリ但シ妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス(第四一條、民法第一四條)是レ心神喪失ノ常況ニ在ル夫ハ完全ナル許可ヲ爲スコトヲ得サレハナリ又此等ノ

申立權者ハ(檢事ヲ除ク)訴訟代理人ニ依リテ申立ヲ爲スコトヲ得但シ之カ爲メニ特別ノ委任アルコトヲ要ス通常ノ訴訟委任ハ斯ル職權ヲ包含セス(民事訴訟法第六五條)禁治産ノ申立ノ形式ハ申請ニシテ訴ニアラサルコトハ禁治産宣告ノ形式カ決定ニシテ判決ニアラサルコトニ因リテ明白ナリ(第五一條第五三條)又該申立ノ方法ハ申立權者ノ選擇ニ從ヒ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(民事訴訟法第一三五條)又此申立ニハ其原因タル事實即チ證據方法ヲ表示スヘシ殊ニ申立權ヲ有スル旨ノ證明書竝ニ心神喪失ノ常況ヲ證スル診斷書ヲ添附スヘシ然レトモ這ハ訓示的規定ナルヲ以テ(第四二條……ヘシ……)斯ル表示ヲ缺クモ之カ爲メニ申立カ無效ト爲ラス(訴訟能力及ヒ申立)禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス(第四四條)蓋シ禁治産手續ノ公行ハ禁治産ヲ受クヘキ者及ヒ其親族ニ對シ甚タ危險ニシテ且ツ有害ナレハナリ又禁治産ノ手續ニ於テハ申立人訴訟專行主義ヲ制限シテ職權訴訟進行主義ヲ認メタルヲ以テ裁判所ハ申立ニ拘束セラルルコトナク心神喪失ノ常況ヲ確定スル必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得是ヲ以テ(1)裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ヲ提出ヲ命スルコトヲ得

(第四三條)手續ノ開始前トハ人事訴訟手續法第四十六條ニ規定シタル實體上ノ調査ヲ爲ス以前ニシテ又診斷書提出命令ノ形式ハ決定ニシテ職權ヲ以テ申立人ニ送達スヘキモノナリ(民事訴訟法第二四五條)斯ル職權ハ裁判所ヲシテ手續ヲ開始スルコトナクシテ(第四六條理由ナキ申立即時ノ却下ハ其書ヲ得サル)ヲ排斥スルコトヲ得セシムルノ法意ニ出テタルモノナルヲ以テ裁判所ハ申立人カ診斷書ヲ提出セシ又ハ提出シタル診斷書カ手續ヲ開始スルニ不十分ナルトキハ申立ヲ却下スルコトヲ得(然ラスンハ人事訴訟手續法第四十六條ニ從ヒ手續ヲ開始ス)(2)裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知(探知カ關係人ノ訊問ヲ目的トスルトキハ任意的口頭辯論ノ形式ニ從ヒテ行ハル)及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ(第四六條第一項)而シテ其證據調ハ事物ノ性質上禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ本人ヲ訊問證人及ヒ鑑定人ノ訊問ヲ多シトス裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ訊問ハ獨逸民事訴訟法ト異ニシテ裁判所ノ自由ナル意見ニ存スレトモ鑑定人ノ立會ハ之ニ反ス訊問ノ場所ハ裁判所カ自由ニ定ムル

所ナリ裁判所内ニ於テ訊問スルハ多ク不適當ナルヘシ(民事訴訟法第一六二條)又裁判所ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得但シ訊問ヲ爲シ難キトキ(例ヘハ禁治産ヲ受クヘキ者カ噪暴狂者ナルトキ)又ハ訊問ヲ受クヘキ者ノ健康ニ害アルトキハ訊問ヲ爲サス鑑定人ノ選定及ヒ其員數ニ關シテハ民事訴訟法第三百二十四條及ヒ第三百三十一條ノ規定ニ依ル(民事訴訟法第三百二十四條第三項ハ禁治産ノ手續ニ於テ當事者ナキヲ以テ適用ナシ)第四七條裁判所ハ民事訴訟法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ヲ準用シテ證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得第四六條第二項本項不必要ニ似タリ何トナレハ民事訴訟法ノ規定外ニ於テ證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スヘキコトナケレハナリ然レトモ民事訴訟法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ハ本來ノ意味ニ於ケル當事者ノ存スル訴訟手續ヲ前提トシテ行ハルルモノナルカ故ニ斯ル當事者ノ存セサル訴訟手續タル禁治産ノ手續ニ於テ正則的證人及ヒ鑑定人ノ訊問手續カ行ハルルニハ其旨ヲ表示スルノ法文アルヲ必要トス是レ人事訴訟手續法第四十六條第二項ノ規定アル所以ナリ)而シテ申立人及ヒ禁治産ヲ受クヘキ者ハ何レモ

當事者ニアラサルヲ以テ裁判所ハ證人トシテ申立人ヲ訊問スルコトヲ得(又申立人及ヒ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ノ親族ハ證言拒絶ノ權ヲ有セス(禁治産ヲ受クヘキ者ノ訊問カ證據調ノ一種ナルコトハ前述シタル所ナリ)(3)自由聞諾等ハ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラス又關係人ノ期日ニ出頭セサルコトハ手續ノ進行ニ影響ナシ裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調査シ裁判ヲ爲スヘシ(申立人ハ其申立ヲ手續ノ終局ニ至ルマテ自由ニ取下クルコトヲ得(手續ハ決定ニ依リテ終了ス)蓋シ法律ハ禁治産ノ申立ヲ取下クルコトヲ禁スル旨ヲ規定セサレハナリ(禁治産手續ニハ訴ナキヲ以テ之ヲ前提トスル民事訴訟法第百九十八條ノ規定ノ適用ナシ)而テ禁治産手續ハ一旦申立ニ因リテ開始セラレタル以上ハ爾後職權ヲ以テ之ヲ續行シ申立人カ其申立ヲ取下ケテ廢止セシムルコトヲ得サルモノナリトノ論旨ハ採用スヘカラス蓋シ申立ノ取下ヲ許シ手續ノ進行ヲ爲サシメサルコトハ職權訴訟專行主義ト矛盾セサルノミナラス申立ハ單ニ手續開始ノ爲メニ必要ナルニアラスシテ却テ裁判ヲ爲スカ爲メニ必要ナルヲ以テ申立カ裁判ヲ爲ス當時ニ於テ存續スルニアラスンハ裁判ヲ爲スコトヲ

得サルノ法則上前示ノ論旨ノ不當ナルヤ明白ナレハナリ但シ禁治產者ノ申立ノ取下アリタル場合ニ於テ檢事カ之ヲ追行スルコトヲ得ルヤ疑ヲ容レス(第四五條然レトモ申立人ハ禁治產事件ノ當事者ニアラス却テ其訴訟人ナルヲ以テ開始シタル手續ニ立會ヒ殊ニ期日及ヒ探知並ニ證據調ノ通知ヲ受クヘキ權ナシ((2)判所ノ職權及ヒ申立人ノ權能禁治產事件ニ於テ又他ノ事件ニ於ケルト同シク申立ヲ却下シタル決定ト申立ヲ是認シタル決定トノ二者アリ前者ハ裁判所カ(1)其調査ノ結果不適法ナリト認メタルトキ殊ニ管轄違又ハ申立人カ申立權ヲ有セスト認メタルトキニ於テ手續ヲ開始スルコトナク職權ヲ以テ之ヲ爲シ(2)手續ヲ開始シ又之ヲ開始セスシテ心神喪失ノ常況ニ在ル事實ナシ即チ申立ノ理由ナシト認メタルトキニ於テ之ヲ爲ス(第四三條第四六條)而シテ申立ヲ不適法トシテ却下シタル決定ハ民事訴訟法第二百四十五條末項ニ從ヒ申立人ニ職權ヲ以テ送達シ且ツ檢事ニ之ヲ通知ス(第四五條)該決定ニ對シテハ申立人カ民事訴訟法第四百五十五條ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ禁治產ノ宣告ヲ受クヘキ者ハ決定ヲ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ニ對シ再抗告ヲ爲スコトヲ得ス又申立ヲ理由ナシトシテ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事(手續ニ參加シタルト否トヲ問ハス)ニ送達ス此ノ如ク職權ヲ以テ申立人ニ送達ヲ爲ス理由ハ該決定ハ口頭辯論ニ基キテ爲スコトナケレハナリ(第五一條第一項)檢事ニ送達ヲ爲ス理由ハ檢事ニハ前述ノ如ク手續ノ開始ヲ通知シタルヲ以テ手續ノ終局ヲ通知スルヲ當然トスレハナリ該決定ニ對シテハ申立人及ヒ檢事カ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(第四五條第一項)檢事ハ手續ニ參加シタル場合ト雖モ即時抗告ヲ爲スノ職權ヲ有シ又更ニ禁治產ノ申立ヲ爲ス職權ヲ有ス(第四五條)然レトモ申立權ヲ有シテ之ヲ行使セサリシ者ハ之ニ反シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ス唯管轄裁判所ニ禁治產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルノミ

抗告裁判所ノ手續ハ亦檢事ノ共助ノ下ニ於ケル職權訴訟進行主義ナルヲ以テ同手續ニ人事訴訟手續法第四十三條乃至第四十六條ノ規定ノ準用アルハ當然ナリ(第五四條第二項)又抗告裁判所カ人事訴訟手續法第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ニ從ヒテ禁治產ノ宣告ヲ爲スヘキモノタルコトハ法律上明文ヲ待タスシテ明白ナリ(抗告裁判所カ爲シタル禁治產ノ宣告ニ關シテハ人事訴訟法第五

十二條及ヒ第五十五條ヲ參考シ抗告棄却ノ裁判ニ對シテハ民事訴訟法第四百五十六條及ヒ第四百五十八條ヲ參考スヘシ後者即チ禁治産ヲ宣告スル決定ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(第四八條)診斷書ノ提起ヲ以テ鑑定人ノ訊問ニ代フルコトヲ得サルハ疑ナシ是レ禁治産ノ宣告ヲ以テ之ヲ受クル者ノ能力ニ重大ナル影響ヲ來スヲ以テナリ而シテ禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人檢事(手續ニ參加シタルト否トヲ問ハス)及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達ス(第五一條第二項民法第九〇二條第九〇三條)又該決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受クル日ヨリ效力ヲ生シ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス(第五二條)此ノ如ク職權ヲ以テ禁治産ヲ宣告スル決定ヲ申立人ニ送達スル理由ハ該決定ハ之ヲ所謂口頭辯論ニ基キテ爲スコトナケレハナリ(民事訴訟法第二四五條第三項)申立人ニ送達シ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ送達セサル理由ハ送達カ心神喪失ノ程度ヲ增加スルノ虞アル

英吉利　千八百八十三年八月二十五日發布千八百八十五年八月十六年、八十八年ノ改正アリ

加奈太　千八百八十六年發布千八百八十八年、九十年、九十一年、九十二年、九十三年ノ改正アリ

北米合衆國　千八百七十年七月八日發布、千八百九十三年、九十七年ノ改正アリ

墨西哥　千八百九十一年發布

瑞西　千八百八十八年六月二十九日發布、千八百九十三年ノ改正アリ

瑞典　千八百九十七年一月十一日發布

匈牙利　千八百九十五年七月七日發布

露西亞　千八百九十六年五月二十日發布

土耳其　千八百八十年三月一日發布

墨西其　千八百九十年六月七日發布、千八百九十六年ノ改正アリ

秘露　千八百九十六年一月三日發布

巴西　千八百八十二年十月十四日發布

「ウルグエイ」千八百八十五年十一月十三日發布六年ノ期間ヲ定ムル

瓜地馬拉　千八百八十六年五月二十七日發布

「コスタリカ」千八百九十六年六月二十六日發布

突尼斯　千八百八十八年十二月二十六日發布

「コンゴー」　千八百八十六年十月二十九日

南亞弗利加共和國　千八百八十七年七月一日發布

印度　千八百八十八年三月十六日發布

「ニユージーランド」　千八百八十九年九月二日發布

「タスマニーン」　千八百九十三年九月二十九日發布

「クキンスランド」　千八百九十六年五月七日發布

和蘭ニテハ目下特許法案ヲ編纂アリ未タ法律ヲ制定セサルヲ以テ

我邦ニ於ケル特許法ノ嚆矢ハ明治四年七月發布ノ太政官專賣略規則トス然ル

ニ翌五年三月二十九日布告第百五號ヲ以テ此規則ハ當分其施行ヲ中止セラレ

タリ明治十八年四月十八日專賣特許條例及專賣特許手續ノ發布アリ同年七月

二日ヨリ之ヲ實施ス同二十一年十二月十八日勅令第八十四號ヲ以テ特許條例

ヲ改正シ二十二年一月四日其施行細則ヲ發布シ二月一日ヨリ之ヲ實施ス同三十

二年三月一日法律第三十六號ヲ以テ現行特許法ノ發布アリ其施行細則ハ同年

六月二十日農商務省令第十三號ヲ以テ發布セラレ同年七月一日ヨリ之ヲ實施

ス此ニ注意スヘキハ明治二十一年ノ特許條例ハ已ニ廢止セラレ舊法ニ依リテ

與ヘラレタル特許ハ新法ニ依リテ受ケタル特許ト同一ノ效力アルモノト爲リ

タリト雖(特許法第五十三條)特許ノ無效ヲ主張スル場合ニハ其特許ヲ與ヘタル

法令即チ特許條例ニ依リテ判定セサルヘカラサルコトヲ是ナリ又特許權ハ商標ト

十特許法ハ一面ニハ特許權ノ成立及消滅ニ關スル要件ヲ規定シ(學者或ハ之

ヲ實體的特許法ト稱ス)他ノ一面ニハ特許出願、特許處分等ニ關スル手續ヲ規定

ス(學者或ハ之ヲ形式的特許法ト稱ス)特許權ハ財產權ナリ故ニ特許法中ニ私法

規定アルハ當然ナリト雖然カモ特許出願又ハ特許處分ニ關スル規定アリ例令

ハ關スル規定アリ又刑法規定アリ故ニ其大部分ハ公法規定ナリ

財產權タル特許權ニ關スル私法規定ハ民法ニ對シテ普通法ト特別法トノ關係アリト雖其私法關係ニ屬スル總テノ事項カ特許法ニ規定セラルルニ非スシテハ特許權ヲ目的トスル法律行爲ニ關シ民法ノ法律行爲ニ關スル規定ノ適用アルハ勿論特許法ニ於テ特許權ヲ共有又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ト規定シタルモ其質權ニ關シテハ民法第三百六十二條第二項ノ適用アルヘク共有ニ關シテハ民法第二百六十四條ノ規定ノ適用アルヘキカ如シ又特許權カ商行爲ノ目的ト爲ル場合ニ於テハ又商法規定ノ適用アルハ勿論ナリ

十一　實際家ノ參考ト爲スニハ條文ノ順序ニ從テ說明スルコト便利ナルヘシト雖講義ノ甚タ冗長ニ亘ランコトヲ恐ルルト又初學者ノ爲メニ法理ノ大體ヲ容易ニ會得セシムル便利アルトノ爲メニ余ハ逐條講義ノ方法ヲ取ラスシテ却テ左ノ順序ニ依リ說述スヘシ

第一章　發明
第二章　特許ヲ受クヘキ人
第三章　特許手續
第四章　特許權
第五章　特許ノ無效及取消

補遺　先ニ獨逸國ハ未タ工業所有權保護同盟ニ加入セサルコトヲ述ヘシカ本年五月一日ヨリ同國モ亦該同盟ニ加入スルコトト爲レリ

第一章　發明

第一節　最先ノ發明

特許權ハ發明ヲ專用スル權利ナルヲ以テ同一ノ發明ニ關シテ數多ノ特許權ヲ成立セシムルコトヲ得サルコト恰モ一物ニ數多ノ所有權ノ成立シ得サルカ如シ故ニ數多ノ發明者アル場合ニ於テハ何人ニ特許ヲ與フヘキヤヲ規定セサルヘカラス是特許法カ著作權法ト趣ヲ異ニスル所ナリ著作ニ在リテハ剽竊又ハ僞作ニ非スシテ同一ノ著作カ數人ニ依リテ獨立ニ創作セラルル場合ハ殆ト之無シ之ニ反シテ發明ニ在リテハ同一ノ發明カ數多ノ人ニ依リテ案出セラルル

コト勿カラサルナリ

特許ヲ受クヘキ發明者ヲ定ムル方法ニ關シ二主義アリ一ハ發明ノ前後ニ由リテ定ムルナリ英米主義是ナリ他ハ特許出願ノ前後ニ由リテ定ムルナリ獨逸主義是ナリ發明者ヲ保護スル精神ヨリ推ストキハ第一主義ハ最モ條理ニ適シタルモノナリ第二主義ハ之ニ反シテ公益上發明ヲ可成的速ニ公ニセシメ從テ實施セシムルヲ目的トセルモノナリ且夫レ發明ノ前後ハ實際ニ於テ之ヲ判知スルコト甚タ難キノミナラス早ク發明シタル者ハ早ク出願シ得ヘキカ常狀ナルヲ以テ第二主義ヲ採リシ結果ハ必スシモ第一主義ト齟齬スルモノニ非スシテ發明者ヲシテ速ニ其發明ヲ公ニセシムルノ利益アルナリ而シテ我特許法ハ第一主義ヲ執レリ

發明ノ定義ニ關シテハ已ニ總說ニ於テ之ヲ略述セリ而シテ如何ナル定義ヲ執ルモ之ヲ實際ニ適用スルニ當リテハ種種ナル疑問ヲ生スルハ免ルヘカラス今適用上ノ便宜ノ爲メニ二三解說ヲ試ムヘシ

(一)　新規　發明ナル語ハ當然ニ新規ナル意味ヲ含ムナリ個リ主觀的ニ新規ナルノミナラス客觀的ニ新規ナルコトヲ要スルナリ凡ソ獨力ニテ案出シタル所ノモノハ其人ノ智能的製作ニシテ主觀的ニ新規ナルコト勿論ナリト雖其考案カ已ニ世間ニ知レ亘リタルモノナルトキハ以テ發明ト稱スヘカラス是發明ト案出トノ異ナル所ナリ然ルニ我明治十八年ノ專賣特許條例明治二十一年ノ特許條例及獨佛米其他多クノ特許法ニ於テハ故ラニ「新規ナル發明」ト明記セリ然レトモ多數ハ之ヲ以テ解疑的文字ト爲スナリモ

我特許法第一條ニ於テハ新規ナハ文字ヲ用キスシテ最先ナル文字ヲ用キタリ是數多ノ發明者アル場合ニハ先ツ發明ヲ爲シタル者ニ特許ヲ與フヘキ主義ヲ明カニセルモノナルコト前陳ノ如シ然ルニ專賣特許條例及特許條例ニ於テハ最先ナル文字ヲ缺クト雖發明カ新規ナルト云フハ其發明ヲ爲シタル時期ニ於テ新規ナルヲ謂フモノナルヲ以テ所謂最先ノ發明ニ非サレハ特許ヲ與ヘサルコト特許法ト異ナル所無カリシナリ

(二)　特許出願前ニ於テ公知公用ト爲ラサルコト　發明ノ新規ナルト否トハ發明完成ノ時期ニ於テ決スルモノナリ然レトモ發明完成ノ時期ニ於テ新規ナル

發明ハ何時ニテモ特許ヲ受クルコトヲ得ルニ非ス特許法第四條ニ依レハ特許出願前ニ於テ公ニ知ラレ又ハ公ニ用キラレタル發明ハ假令最先ノ發明ナリトモ特許ヲ受クルコトヲ得ス

特許出願前ニ於テ其發明カ公知公用ト爲ル場合ハ特許出願者自己ノ發明カ公知公用ト爲リシ場合アリ又他ニ同樣ナル發明ヲ爲シタル者アリテ其發明カ公ニセラレシ場合アリ而シテ其ニ特許ヲ與ヘラレサル原因ト爲ルナリ又自己ノ發明カ公ニセラレシ原因カ自己ノ故意ニ出テタルト他人ノ惡意ニ出テタルトハ問フ所ニ非ス

此立法ノ趣旨ハ一旦公ニ知ラレ又ハ公ニ用キラレタル以上ハ發明ハ已ニ何人モ之ヲ使用シ得ル狀態ニ在ルモノナルヲ以テ其後更ニ特定ノ人ニ之ヲ獨占セシムルハ公益ヲ害スル惡アルヲ以テナリ

公知公用ナル文字ハ專賣特許條例以來用ヰ來レル所ナリ(專賣特許條例第四條第二項特許條例第二條條三項)然レトモ公用ナル文字ハ必要ナキカ如シ凡ソ公用ナル事實アレハ公知ナル事實アル事ハ明白ナリ已ニ公知ニシテ特許ヲ受ク

ルコトヲ得サル以上ハ公用ノ場合ニハ言フヲ待タサルナリ獨逸特許法ニ於テハ最近百年間公刊物ニ記載セラレタル場合(即チ換公知ノ場合ニ相當ス)ノ外「公然使用セラレタル場合ヲ規定セリ公然使用スルトハ發明ヲ秘スル意ナクシテ人ノ觀聽ニ觸ルル場所又ハ方法ニテ之ヲ使用スルヲ謂フ公ニ用キラルルトハ之ヲ用ユル人ノ衆多ナルヲ意味スルモ公然之ヲ用ユルト云フハ使用スル方法ノ公然ナルヲ謂ヒ之ヲ使用スル人ハ發明者ナルト他人ナルト又數人ナルト一人ナルトヲ問ハサルナリ故ニ獨逸法ト我特許法トハ大ナル差異アルナリ我特許法ニ在リテハ單ニ公然ノ使用アルモ尚ホモ公知公用ト爲ラサル限ハ特許ヲ受クルコトヲ妨ケサルナリ

公知公用ト謂フ以上ハ之ヲ知レル人又ハ用ユル人ハ必ス不特定ノ衆多ナルコトヲ要ス假令一二ノ之ヲ知リ又ハ之ヲ用キタル者アルトモ公知公用ノ事實ヲ推定スルニ足ラサルトキハ特許ヲ受クルコトヲ妨クルモノニ非ス如何ナル程度ニ於テ知ラレ如何ナル程度ニ於テ用キラレタル人ハ公知公用ト爲ルヤハ事實問題ニシテ定義的ニ之ヲ說示スルコトハ難シ

發明者ノ家族又ハ其使用人若クハ代理人カ之ヲ知ルモ以テ公知ト謂フヘカラス又特許局ノ官吏其他公務ニ從事スル者カ公職上其發明ヲ知ルモ以テ公知ト謂スヘカラス又發明者カ特定ノ人ニ私カニ我發明ヲ語ルモ直ニ以テ公知ト謂フヘカラス之ニ反シテ家族使用人代理人官吏又ハ私カニ發明者ニ聽キタル人等カ其發明ヲ吹聽シタル場合ニハ假令發明者ノ意思ニ反スルトモ又ハ職務ニ負クトモ以テ公知ト爲ルコトヲ妨クルモノニ非ス

公衆之ヲ知リ又ハ之ヲ用ユルニ於テハ其之ヲ知リ又ハ之ヲ用ユルニ至リシ原因又ハ之ヲ知リタル場所ノ如何ハ問フ所ニ非ス例ヘハ數多ノ本邦人カ巴里博覽會ニ於テ觀來リシ發明又ハ內國ニ送リ來リシ外國新聞紙ニ依リテ報道セラレタル發明ハ所謂公知タルヲ妨ケサル大リ又其發明ノ根據タル科學上ノ原理原則ヲ知ラス又其效用ノ精細ヲ知ラスシテ之ヲ用キタル場合ニ於テモ猶公知公用タルヲ妨ケス例ヘハ從來用キラレタル或肥料ヲ用ヰテ其植物ノ害蟲ヲ驅除スルコトヲ工夫スルモ若シ其使用方法ニシテ肥料ヲ施コスト同樣ナル方法ニ從フモノトスレハ此發明ハ已ニ公知公用ニ屬スルモノト謂フヘシ何トナレ

ハ假令其驅蟲的效果ヲ知ラサルニモセヨ從來已ニ之ヲ用ヰテ暗ニ驅蟲的效果ヲ收メツツアリタルモノナルヲ以テナリ

特許法第二條第四號但書ノ規定ニ依レハ試驗ノ爲メ最近二箇年間ニ於テ公知ト爲リタルハ特許ヲ受クルコトヲ妨ケス此立法ノ趣旨ハ發明ニ依リテハ其成果ノ試驗ヲ爲スニ當リ或ハ長年月ヲ要スルモノアリ或ハ到底人ノ視聽ヲ遮キルコトヲ得サルモノアリ此ノ如キ發明ニ在リテハ試驗ノ爲メニ止ムナク公ニ知ラルル恐レナシトセス若シ公知ノ規定ヲ例外ナシニ適用スルトキハ此種ノ發明ニハ終ニ特許ヲ受クルコトヲ得サルニ至ルヘキヲ以テナリ而シテ此規定ハ例外規定ナルヲ以テ果シテ試驗ノ爲メナルヤ否ヤ嚴格ニ判斷セサルヘカラス

公知公用ハ日本ニ於ケル事實ニ就テ判斷スヘキモノナルヤ或ハ外國ニ於テ公ニ知ラレ又ハ用ヰラレタル事實モ亦公知公用ト謂フヘキヤ疑アル所ナリ交通ノ頻繁ナル今日ニ於テハ外國ニ於テル公知公用ハ內國ニ於テル公知公用ヲ想像シ得ヘキ場合多シト雖單ニ外國ニ於テ公知公用タル事實ヲ以テ直ニ內國

ニ於ケル公知公用ヲ斷定スルコトヲ得ス故ニ此解釋ノ如何ハ重大ナル結果ヲ生ス「シ外國ノ立法例ハ區區ナリ瑞西聯邦特許法千八百五十二年「等ハ內國ニ於テ云云ト規定シ獨逸特許法何嗎特許法等ハ公刊物ニ記載セラレタル場合ニハ內國ト外國トヲ區別セサルモ公然使用シタル場合ニ關シテハ「內國ニ於テ」ト明記セリ公知ト公然ノ使用ト共ニ內外國ヲ論セサル立法例又尠カラス

第一主義(公知又ハ公用ヲ內國ニ限ル主義)ノ利益ハ內國ノ住民ニシテ內國ニ於テ未タ公知ト爲ラサル發明ヲ爲シタル場合ニ外國ニ於テ同樣ノ發明カ公知ト爲リアルニ拘ラス特許ヲ受クルコトヲ得ルニ在リ而シテ其反面ニハ外國人ヲシテ曾テ久シク外國ニテ公知又ハ公用ト爲リシ發明ヲ內國ニテ更ニ特許ヲ受ケシムルノ不利益アリ此不利益ヲ防カンカ爲メニハ公知公用ヲ內國ニ限ラサル主義ヲ執ルヲ可トス而シテ此主義ヲ執ル結果ハ內國人ニシテ外國ニ於テ公知ト爲リタルモ內國ニテハ未タ知ラレサル發明ヲ爲シタル場合ニ特許ヲ與フルコトヲ得サルニ在リ故ニ外國人ニ特許ヲ與ハサル國ニ在リテハ第二主義ヲ執ルハ當然ナリト雖外國人モ內國人ト同シク特許ヲ受クルコトヲ得ル國ニ在リテハ必シモ常ニ然リト云フヲ得ス文化ノ遲レ工業ノ猶振ハサル國ニ在リテハ其國ノ工藝ハ一般ニ外國工藝ノ摸倣ナリ此ノ如キ國ニ在リテハ第二主義ヲ執リテ外國人カ其發明ノ內國ニ公知ト爲ラサルヲ利用シテ漫リニ特許ヲ受クルコトヲ妨クルノ必要アリ然レトモ現代ノ如ク交通ノ頻繁ナル時代ニ在リテハ外國ニ於テ公知又ハ公用ト爲リタル發明ニシテ內國ニ於テ久シク知ラレサルカ如キコトハ殆ト之レ無カルヘシ特ニ工業所有權同盟國間ノ如キハ一國ニテ特許出願ヲ爲シタル者ハ一年間ノ優先期間アリ故ニ外國ノ發明者ハ皆此期間ヲ利用スヘシ(同盟國ニ非サル諸國ニテモ各箇國際條約ニテ多クハ此優先期間ノ規定アリ故ニ此優先期間ヲ利用シテ特許ヲ出願セサル發明ニシテ期間ヲ經過シテ尚內國ニ公知ト爲ラサルモノハ極メテ稀ナルヘシ然レハ第一主義ヲ執リタルカ爲メニ甚タシキ不利益ヲ受クルコト無シ且夫レ外國ニ於テ公知ナルヤ否ヤハ審査權極メテ困難ナルモノナリ故ニ出願ニ先ツ內國ニ先ツ公知公用ヲ我特許法ハ單ニ公知公用ト稱シテ地域ヲ限定セス此ヲ以テ解釋上ノ疑義ヲ生

スルナリ然レトモ專賣特許條例及特許條例ノ發布時代ニ在リテハ外國人ハ特許ヲ受クルコトヲ得サリシナリ故ニ單ニ公知公用ト云ヘハ內國ニ於ケル公知公用ト解スヘキヤ當然ナルヘシ而シテ現行特許法ニ於テ其文句ヲ其儘襲受シタルヨリ見レハ縱令其發布ハ外國人ニモ特許ヲ與フル時代ニ在リシトハ雖同樣ノ意味ニ用ヰタルモノト解釋スヘキモノノ如シ然ルニ特許局實際ノ取扱ハ却テ第二主義ヲ執ルモノノ如シ(審決例明治三十五年二月七日第五百二十一號審決、明治三十五年五月三十一日第五百二十七號審決)

(三)　技術ノ應用發明ハ又技術ノ應用ヲ含マサルヘカラス乃チ自然力ノ組合セニ關スル技術上ノ工夫ヲ要スルナリ此點ニ於テ發明ト理想トヲ區別スヘシ縱令自然力ヲ組合セタル結果ニ想著スルモ如何ナル方式ニ依リ自然力ヲ組合セハ此結果ヲ得ヘキヤノ問題ヲ解決セサレハ單ニ理想タルニ止マリ發明ト云フコトヲ得ス例ヘハ水素ト酸素トヲ化合スレハ水ト爲ルト謂フモ水素ト酸素トヲ化合スル方法ヲ案出スルニ非サレハ發明ト稱スヘカラサルカ如シ發明ハ又發見ト區別スヘシ發見トハ已ニ存在スル事物ノ未タ人ニ知ラレサルモノヲ見出タスヲ謂フ發明ハ之ニ反シテ自然力ノ組合セニ關スル人ノ工夫ナリ發明ニ在リテハ此工夫ノ結果タル未タ曾テ存在セサリシ所ノモノナリ之ニ反シテ發見ニ在リテハ發見ノ爲メニ工夫ヲ用ユルコトアルモ是發見ノ手段ニシテ其得タル所ノ事物ハ已ニ存在セル所ナリ例ヘハ「アセチリン」ニ燈油ニ代用シ得ヘキ性質アルコトヲ考出セルハ發明ニ非スシテ發見ナリ何トナレハ「アセチリン」ノ可燃性ハ在來「アセチリン」中ニ備ハリタル性質ナルヲ以テナリ然ルニ此「アセチリン」ヲ燈火用ト爲ス爲メノ特定ノ裝置ヲ案出スルトキハ又發明ト爲ルナリ

歐米諸國ノ特許法中ニ發明ト發見トヲ並記シテ共ニ特許ヲ與フルモノアリ米、佛伊法及墨國法等是ナリ然レトモ近時(第十九世紀ノ八九十年代以後)ノ立法ニハ發見ニ特許ヲ與フルモノ殆ト之レ無シ

(四)　工藝上ノ價値　發明ハ又工藝上一定ノ價値無カルヘカラス工藝上些ノ效用ナキ考案ハ全タ無意味ノモノニシテ(意匠ニ屬スルモノハ此ニ言フ限ニ在ラス)發明ト稱スヘカラス諸國立法例中能クニ此ノ意味ヲ明言スルモノ亦少カラ

ス米國、墺、伊、仏等是ナリ我專賣特許條例及特許條例ハ「有益」ナル文字アリシヲ現行特許法ニ於テ之ヲ刪レリ然レトモ工業上ノ物品及方法ニ關スル發明ト稱スル程モハ自ラ工藝上一定ノ價値アルモノカルコトヲ理會スヘシ工藝上ノ或ハ發明ハ技術上ノ進歩ヲ意味セサルヘカラスト謂フ者アリ進歩ナル語ハ見方ニ依リテ廣狹ノ範圍ヲ異ニスヘシ工藝上一定ノ價値アル考案ニシテ新規カルモノハ總テ工藝ノ進歩ヲ意味スト云フヲ差支ナシ然ラハ特ニ進歩ナル文字ヲ用ユルノ要ナシ若夫レ更ニ狹キ意味ニ於テ發明ヲ限定セントスルハ首肯スルコトヲ得ス且實際ニ於テ所謂進歩ニ屬スヘキモノナルヤ否ヤヲ一一判定スルコトハ極メテ至難ナルヲ以テ徒ラニ實際家ヲ苦シマシメテ而シテ實益ヲ見サルナリ

(五)物ノ形狀材料數量ハ單ニ物ノ形狀ヲ變更シ又ハ材料ヲ變換シ或ハ又數量ヲ增減シタル場合ニハ發明ト爲ラスト稱スル者アリト雖必シモ然ラス要スルニ新規ナル效用ヲ生スヘキ自然力ノ組合セニ關スル技術的考案ナルトキハ其手段カ機械組織ニ關スルト形狀ノ變更材料ノ變換又ハ數量ノ增減ニ關スルト

雜報

○公訴ノ提起ニ因ル縣會議員失職ニ關スル判例　府縣會議員ノ被選擧權ヲ有スル者ハ市町村公民ニ限リ(府縣制第六條第二項)市町村公民タルヲ權利公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲メ裁判上ノ訊問若クハ勾留中停止セラルルモノトス(市制町村制第九條第一項)然ラハ右輕罪事件ニ付キ裁判上ノ訊問若クハ勾留セラレタル府縣會議員ハ當然其職務ヲ失フヘキカ此問題ニ關シ行政裁判所ノ判決ヲ見ルニ曰ク「第一原告ハ輕罪公判ニ付セラレタル者ハ何故ニ縣會議員ノ被選擧權ヲ有セサルヤ其法律ノ條項ヲ示ササルヲ以テ原告ハ果シテ其被選擧權ヲ有セサルヤ否從テ其職ヲ失フ者ナルヤ否ヲ知ルニ由ナシ故ニ被告ノ決定ハ理由不備ニシテ且法律ノ適用ヲ爲サヽル不法ノモノナリト云フト雖理由ノ說明ニ付テハ法律上何等ノ規定スル所アラサルハ其法文ヲ擧ウ說明ヲ爲ストテ違法ノ決定ト謂フヲ得ス第二原告ハ當初完全ナル資格ヲ有シ有效ニ府縣會議員ト爲リタル以上ハ假令輕罪公判ニ付セラレタリトスル雖

町村制第九條第十二條但書府縣制第六條第二項ニ何等ノ關係ナク而シテ府縣制第三十七條ハ被選擧權ヲ有セサルコトカ確定シタル場合ニ適用スヘキモノナレハ被告ノ決定ハ違法ナリト云フト雖町村制第九條第二項ニハ公權停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ公民權ヲ停止スト規定シ又同制第十二條但書ニハ公權ヲ停止セラレタル者ハ町村會議員ノ選擧權ヲ有セスト規定シアルヲ以テ原告ハ其判決ノ確定ヲ待タス直ニ公民權ヲ停止セラレ町村會議員ノ選擧權ヲ有セサル者ニシテ即府縣制第六條第二項ニ規定セル縣會議員タル要件ヲ缺ク者ナレハ被告ノ規定ハ適法ナリ第三原告ハ假ニ輕罪公判ニ付セラレタルノ一事ヲ以テ直ニ失職ノ決定ヲ爲シ得ルモノトスルモ原告ハ判訴不受理ノ判決ヲ受ケタルヲ以テ本件決定ハ取消スヘキモノナリト云フト雖既ニ公判ニ付セラレタル事實アル以上ハ該決定ハ有效ニシテ取消スヘキモノニアラス第四原告ハ知事カ招集狀ヲ原告ノ住所ニアラサル旅店住吉屋ニ送達シ且聞ク所ニ依レハ此會ハ成立セス流會トナリタル由ナルニ更ニ招集ノ手續ヲ爲サスシテ開會時刻變更ノ通知書ヲ送付セシハ違法ナリ隨テ其決議ハ無效ナリト云フト雖招集狀ハ何レノ場所ニテモ其本人ニ受領セシムレハ足リ必スシモ住所ニ送達スルヲ要スルモノニアラサレハ之ヲ原告ノ居ル住吉屋ニ送達セシハ違法ニアラス又該會カ流會トナラサルコトハ被告第二號證ニ依リ明白ナレハ更ニ招集ノ手續ヲ爲スヘキモノト謂フヲ得ス」ト（行政裁判所明治三十五年第三百五號縣會議員失職決定取消事件明治三十六年三月十八日第一部宣告）

○收入役ノ權限　町村收入役ハ町村長ノ監督ノ下ニ在ル者ナルコトハ疑ナキ所ナルカ（町村制第六八條第二項第五號其權限殊ニ外部ニ對シテ如何ナル權限ヲ有スルモノナルカハ多少議論ノ餘地アルト同時ニ町村長カ其町村ノ名ニ於テ他ヨリ金錢等ヲ領收シタルトキハ町村ニ對シ其效果ヲ及ホスヘキカ換言スレハ町村長ハ金錢ノ出納ニ關シ町村ヲ代表スルノ權限ヲ有スルヤ否ヤノ疑アルコトヲ免レス此點ニ關シ大審院ノ見解ヲ見ルニ曰ク「町村制第六十二條第一項ニ於テハ町村ニ收入役ヲ置クコトヲ規定シ其三項ニ於テハ收入役ハ町村長及助役ヲ兼スルコトヲ得サル旨ヲ規定シアルニ徴スレハ收入役ハ町村ノ一吏員ニシテ獨立ノ職務權限ヲ有シ其權限ハ町村長ニ於テ之ヲ侵シ得サルモノ

ナルヤ疑ヲ容レス而シテ町村ノ收入ヲ受領スル權限ハ同法第七十一條ニ於テ之ヲ收入役ニ一任シアルヲ以テ本件借入金ノ受領ノ如キ村ノ收入ノ受領ニ過キサル事項ハ村收入役ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ村長ノ職務權限ニ屬スルモノニアラス同制第六十八條第二項第七號ニハ外部ニ對シテ町村ヲ代表ス云云トノ文詞アルヲ以テ外部ニ對シテハ收入ノ受領ノ如キ事項ニ付テモ亦村長ニ於テ村ヲ代表シ得ルモノノ如シト雖モ同條ニ所謂代表トハ其權限ノ範圍内ニ於テ代表ストノ意義ニ解スヘキヲ正當ナリトス而シテ同條第三項ニハ町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算其他町村會ノ決議ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計出納ヲ監視スル事トアリテ會計ニ關スル事項ニ付テハ收入支出ノ命令權ト監視權トノミ村長ニ屬セシメアルニ因リ收入役ノ職務權限ニ屬スル收入ノ受領ニ付テハ外部ニ對シテモ村ヲ代表スル權限村長ニ屬セサルモノト云ハサルヘカラス（大審院明治三十五年（オ）第六百六十二號貸金請求事件明治三十六年四月九日第二民事部判決）

高等科講義錄

第十號

五月卅一日發行

目次

國際公法

○傭船契約論　其一……法學士　加藤正治

民事訴訟法

○請求ノ原因ニ關スル講演並ニ推問……法學士　齋藤十一郎

刑事訴訟法

○親告罪ニ對スル告訴及ヒ其拋棄告訴人ノ死去並ニ共犯ノ一人ニ對スル判決ノ效力等ニ關スル講演……法律學士　鶴見守義

國際公法

○戰時禁制事業ニ關スル講演……法學士　秋山雅之介

答案批評

○刑事訴訟法答案批評……法律學士　鶴見守義

○商法總則編及ヒ商行爲編答案批評……法學士　松本烝治

○民法親族編答案批評……法律學士　鶴見丈一郎

○羅馬法（自一四九頁至一六四頁）……アクトロール　アンドロール　田中遜

雜報　○最近判例要旨彙報

三十六年六月　和佛法律學校

法學志林

毎月一回十五日發行
仲夏、生徒、校外生ニ限リ
一冊特價郵稅共金九錢

第四十三號

（五月十五日發行）

志林

○現行法上鐵道會社、鑛山會社其他不動產會社ノ株主ナル外國人ノ權能並ニ外國人ニ對スル土地所有ノ權ヲ論ス（續）　巴里大學名譽教授　ポアソナード
○最近判例批評（其八）　法學博士　梅謙次郎
○課稅標準ヲ合算シタル營業稅ノ附加稅ニ付テ　法學士　若槻禮次郎
○「ペルチオオン」式質人識別法ニ就テ　法學博士　岡田朝太郎　海山獵夫

講論

○取引所（續）
○履行期滿前債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因ル履行不能ト損害賠償請求權　法學士　田代律雄
○屋敷的株主ヲ拂込ヲ爲ササルニ因リ權利ヲ失ヒタル場合ニ於ケル株式處分ノ方法　法學士　松本烝治

解疑

○民事訴訟法第十七條ノ檢閲判官ト差押ヲ許サル物件　法學士　岩田一郎
○民事訴訟法第七百四十四條ト第三債務者
○債權者カ債務者ノ第三者ヨリ受クヘキ不動產ニ對スル假差押ノ手續
以上三題　法學士　岩田一郎

其他

判例、雜報、記事　數十件

發行所　和佛法律學校

（明治二十二年十二月九日內務省許可）
（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可　毎月十九回一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日十八日廿日廿一日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年五月卅一日印刷
明治三十六年六月一日發行
（定價金貳拾錢）

東京市牛込區牛込北町十番地
編輯兼發行者　荻原敬之

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
司法省指定
發行所　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）